

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

沖縄県 うるま市

自治体名： 沖縄県うるま市
担当課名： 学校教育課
電話番号： 098-923-7120

1.自治体の基本情報

基本情報

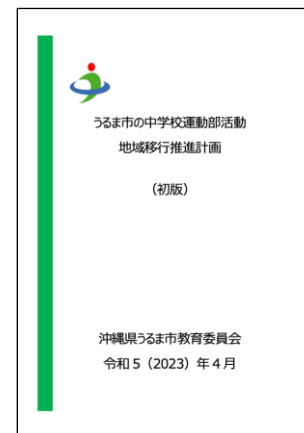
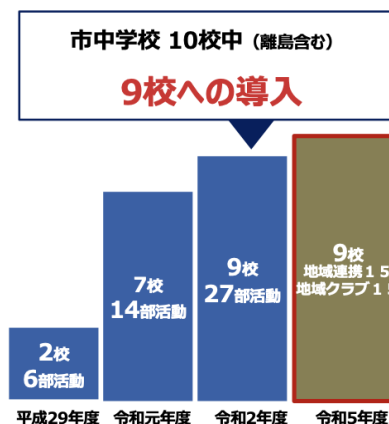
面積	87.03 km ²
人口	126,963 人 R7/2/1現在
公立中学校数	10 校
公立中学校生徒数	3,977人 R6/05/01現在
部活動数	94 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置したが 解散した
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市では、これまで教員の働き方改革を目的とし、学校・地域・民間と連携した学校部活動改革の推進を図ってきた。2017年より部活動指導を希望しない学校・部活動を中心とした部活動指導員及び民間等からの専門指導者を配置しており、令和5年4月には「うるま市の中学校運動部活動地域移行推進計画」を策定し、令和5年度より運動部活動の地域移行に向けた実証事業（スポーツ庁令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業受託）並びに市の独自事業においても部活動の地域移行の取組みを行っている。

本市には約90以上の部活動があるため、今後、更なる地域クラブの拡充に向けては持続可能な管理・運営体制の仕組みと整備が必要不可欠であり課題となっている。

学校体育施設の有効活用及び利便性の向上に加えて、経済的困窮家庭への支援策や安定的な財源確保が求められる。



うるま市部活動応援チャリティーショー

イベント開催：うるま市部活動応援実行委員会

- 入場料：1,000円

地域へお披露目の機会提供

一部又は全部を地域クラブの資金へ

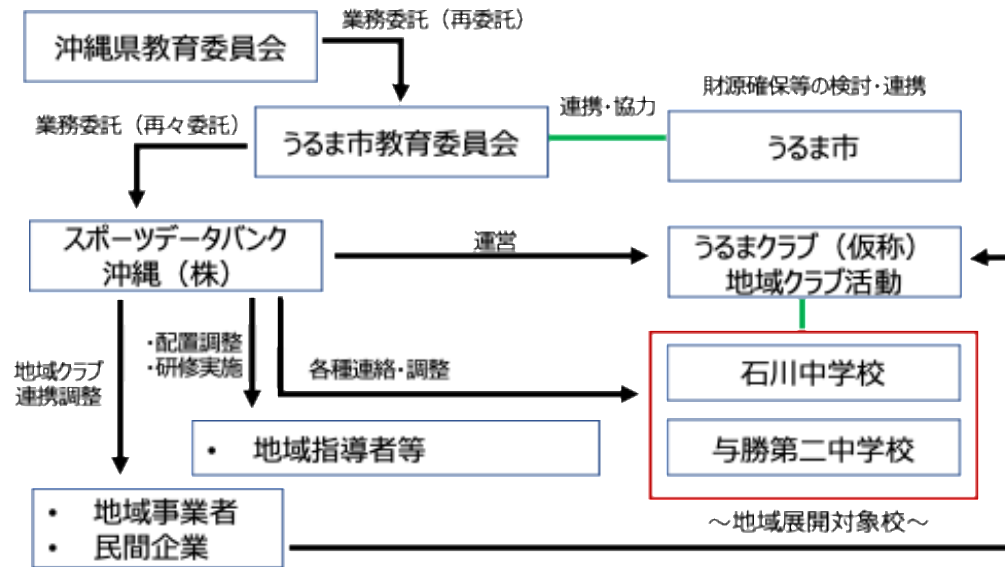
例

- 地域クラブ運営
- 指導者報酬の補填
- 活動場所の使用料補助
- 初期費用への補助 等

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・ 本事業の主管課・方針の決定
- ・ 学校への通達及び調整

◎首長部局

- ・ 教育委員会との連携
- ・ 財源確保に関する検討連携

年間の事業スケジュール

令和6年05月	・契約締結
令和6年06月	・対象地域クラブの学校調整 ・指導者選定
令和6年07月	
令和6年08月	
令和6年09月	・学校体育施設におけるICT ツール選定及び実施調整
令和6年10月	
令和6年11月	・対象地域クラブの決定
令和6年12月	・学校体育施設におけるICT ツールの事前テスト及び設置
令和7年01月	・実証後ヒアリング
令和7年02月	・事業完了報告

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施予定の地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A: 部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2クラブ
	B: 部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		—
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	4人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施 時間帯	参加者 (学年別)	体制構築	活動 場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会 参加方法
うるま市 地域クラブ	民間 事業者	ソフトボール	週1回 期間中、合計 4回実施予定	午前	2年生 1年生	実施体制の 構築完了 (令和7年度 より実施)	学校 グラウンド	2人	4人 (内、兼務×4人)	なし	【中体連】 部活動 【その他】 地域クラブ
うるま市 地域クラブ	民間 事業者	バレーボール	週1回 期間中、合計 4回実施予定	午前 午後	2年生 1年生	実施体制の 構築完了 (令和7年度 より実施)	学校 体育館	1人	4人 (内、兼務×4人)	なし	【中体連】 部活動 【その他】 地域クラブ

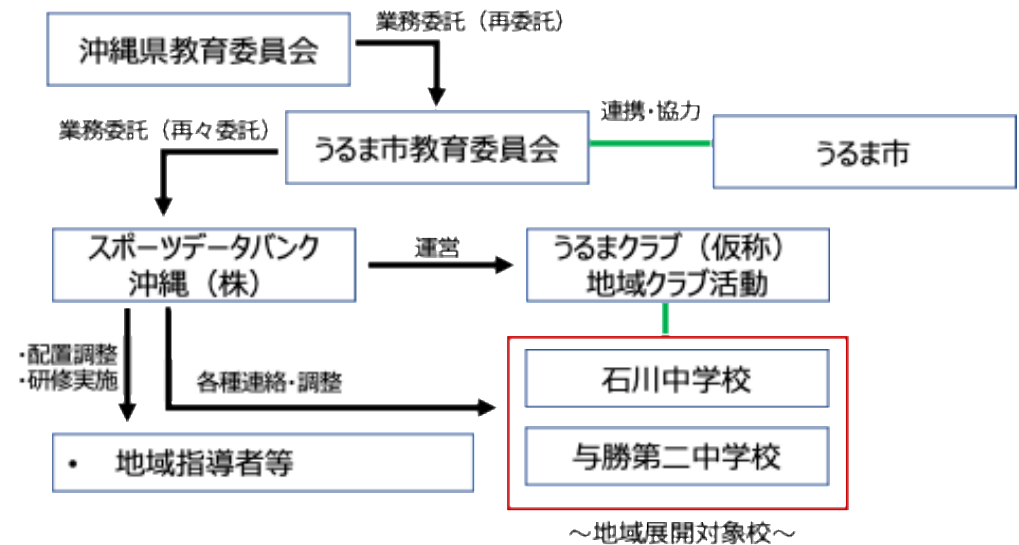
2.実証内容と成果

主な取組例

●うるま市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施予定種目	女子ソフトボール
運営団体名	うるま市地域クラブ
期間と日数	女子ソフトボール (11月中旬決定) 12月中旬～1月末(予定)
指導者の主な属性	地域の専門指導者
活動場所	学校体育施設(グラウンド・体育館)
主な移動手段	徒歩・保護者による送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	女子ソフトボール 参加費用負担なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり: 800円/年 指導者1人あたり: 1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

[運営スタッフ]

➤ 統括責任者

役割: 運営管理の総括的な監督を担う

➤ コーディネーター

役割: 運営管理・進捗確認を行う(指導者調整・説明会等の実施含む)

[指導者]

役割: 研修を踏まえ、適切な地域クラブ活動の運営・活動実施を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

指導者の認証制度の構築

e-Learningを活用した指導者研修の拡充とともに市の認定研修として、市内で活動するスポーツ指導者においては本研修を必ず受講することの周知を行う。

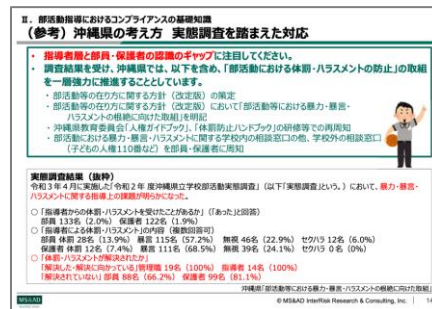
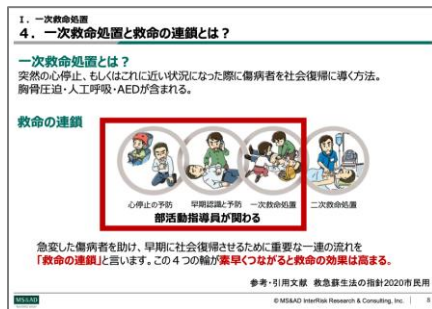
取組の成果

本市が配置する指導者は、種目に関わらず指導者に共通して必要とされる資質の向上を図ることを目的としたe-Learning研修の受講を必須としている。地域クラブ指導者においても同様の研修受講の案内を実施しており活動前までに研修項目を全て受講することを周知している。本市では、本研修にかかる費用は指導者負担としており、指導者としての意識と資質を高めている。

受講した指導者からは「改めて学び直す機会が確保され、意識が高まった」、「分かっているつもりではなく、受講して知識を習得することで自信につながった」等、質の保障に結びつく研修の一つとして位置付けられた。

主なe-Learning研修項目

- 自然災害への対応
- 救急救命・救護
- 防犯
- コンプライアンス・ハラスメント
- メンタルヘルスケア
- 個人情報保護



e-learning (オンデマンド)
15~20分 / 各項目

▲ e-Learningイメージ画像

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

1. 自然災害への対応	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の基礎知識（特徴、過去の被害 など） 風水害対策について（指導中止・中断の判断 など）
2. 救急蘇生法 一次救命処置と熱中症	<ul style="list-style-type: none"> 一次救命処置（救命の可能性と時間経過 など） 熱中症（熱中症の重症度と症状・治療 など）
3. 部活動における防犯	<ul style="list-style-type: none"> 少年法と犯罪発生状況（少年法に関する知識 など） 防犯から見た体罰（体罰の定義など）
4. コンプライアンスの重要性と ハラスメントの防止	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスとは（部活動指導におけるステークホルダーの期待 など） 事例と解説（不適切行為の事例 など）
5. 子どものメンタルヘルス不調と対応	<ul style="list-style-type: none"> 思春期のメンタルヘルス（思春期の特徴） こころの不調への気づきと対応（声かけのポイント など）
6. 個人情報の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の基本（真に守ってほしい情報の理解 など） ソーシャルメディアの利用と情報漏えい（利用上の留意点 など）



確認テストの実施



各項目のe-Learning学習後にある確認テストにおいて、満点（100点）を取得することで「合格」としている。

今後の課題と対応方針

本研修実施のこれまでの成果を踏まえ、今後の指導者研修の在り方として市の認定研修に位置付けて定着させることを目指す。また、生徒や保護者、学校等が求める地域クラブ活動の在り方にマッチする指導者選定に際して、研修内容のブラッシュアップを行なっていく。

今後、地域クラブの拡充を見据えて、指導者募集に際して「量の確保」の観点からは指導者に求める保有資格や研修受講の整理を行い、人材バンクの設置にかかる指導者の基準や要件設定を進めていく。「質の保障」の観点からは、e-Learning研修と合わせ、本市が設定する指導者要件を満たすための研修の在り方や受講支援等の施策も検討を行なっていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

本市内で活動するスポーツ指導者をはじめ、地域の企業・団体で仕事をする地域住民のなかでも、指導者ないしはサポート人材として参画いただくため連携強化を図る。技術指導以外の側面で、体づくりや怪我予防のトレーニング等の指導にあたるトレーナーの活用について検討及び今後の連携に向けた情報の発信・協力要請を行う。

取組の成果

昨年度から継続実施している地域クラブを中心に、技術指導を行う指導者の他、プラス1名トレーナーを配置する検討を進めた。トレーナーを配置する目的としては、スポーツを行う中学生年代に対して、怪我予防につながるトレーニング方法や種目を限定しないカラダづくりの基礎と技術指導を組み合わせ、効果的な且つ安全な活動の環境整備を構築していくことの方角性を示した。

「怪我予防・カラダづくり」の観点で、整骨院やトレーナーが多く所属するフィットネスやジムを中心に市内事業者のリストアップを行なった。全国・地域展開の事業者だけではなく、市内で事業展開している個人事業者も対象とした。

▶ **【市内整骨院など】**

▶ **【フィットネス・パーソナルジムなど】**

今後の課題と対応方針

中学生年代におけるカラダづくりにも着目し、地域クラブ活動の中でもその要素を取り入れることで安全なスポーツ活動の環境整備を強化していく。今回リサーチした整骨院などを始め、体の動かし方やメンテナンスの側面からフィットネスやパーソナルジムの市内事業者との連携可能性を見出していき、地域クラブ活動の一環としてトレーナーによる講習を実施していく。今後、実技だけではなく、情報や知識の習得として栄養学などの座学講義も取り入れ、子どもたちが安全にスポーツを実施できる総合的な環境整備に取り組むことを目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

学校施設の効果的な活用や管理方法に関する取組として、学校体育施設の活用方法（鍵の管理等）や調整の仕組みなどを令和5年度の取組を踏まえてブラッシュアップするとともに、ICTツールによる管理の可能性を検討する。また、学校施設を最大限有効活用できるよう、校舎内の活用の可能性などを探る。

取組の成果

【スマートキーボックスの設置】

今回、Wi-Fi環境がなくても設置・操作ができる機器で検証を実施した。事前テストを行なったことで本設置ではスムーズな設定と運用が行えた。スペアキーの作成不要、対面等での鍵の受け渡しが不要となることで鍵の管理の負担軽減につながっている。解除ロックは指定されたものであるため、利用者のみが解除できる仕組みになっており、また緊急時用の解除キーも備えられていることから管理の面での安全は担保された。

【クラウドカメラの設置】

今回は1台の設置であったため、出入口を画面に収めることはできなかったが、施設体育館内が見渡せる位置としていることから、活動や指導の状況（様子）を確認することは十分に可能であった。学校側としても地域クラブだけではなく教育課程の領域においても有事の際に確認できる環境が整えられ、安心感があるとの評価を得られた。



今後の課題と対応方針

それぞれ実証期間が約2ヶ月であったことから、運用の物足りなさを感じられたとのコメントがあったが、他方で今後の学校体育施設の活用においては必要な整備であるとの評価があった。そのため、持続的な運用を目指して

いくために本格的な導入検討を進めていく必要がある。また、利用者（地域クラブ活動）の増加も見越し、今回のICTツールと予約管理システムを連動させた一元管理の仕組み構築を目指していく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本市では2017年から地域連携として外部指導者の配置を行ってきたことから、顧問以外に指導者配置をすることのハードルは比較的低い傾向にある。一方、地域クラブ活動として新規で取り組むことに関しては、学校との連携イメージや学校体育施設を学校関係者不在の中で使用することに関しては、不安要素が残る印象が強く、また将来的には平日も移行していくことに対して、具体的なイメージが難しい状況にあることが分かった。更には、通常の学校部活動と参加生徒が異なる地域クラブにおいて、移行期間における大会参加や生徒同士の関係性も懸念として出てきている。これらの理由に加えて、現状の部活動での運用に大きな課題を感じていない中で取り組みに踏み出せない現状もあった。

学校調整する中で、これまでは質問が多かった反面、地域クラブに必要とされる制度や各種資源の具体的な提示が上がり、学校側の理解が深まってきたという点では、プラスに捉えたい。

また、今後、実証期間に縛られることなく、自走化していける仕組みづくりとして財源確保と同時に参加費の在り方にも具体的な内容を検討していく。

●成果の評価

対象クラブ決定までの調整に時間を要し地域クラブ活動の実証は期間中に実施することができなかったが、学校側が地域展開に取り組むための課題意識が高まっていることや必要な要素の理解度が浸透していることが実感できた点は、今後の取り組みにつながられるものとなった。

●今後に向けて

地域展開の方向性を示していく行政側だけではなく、当事者になり得る学校側からも、より良い地域クラブ環境の体制整備に向けての提案や課題の提示が多く出てきたことを活かし、現場にある不安の解消や本市の生徒たちにとって望ましい環境整備の施策を講じていく。地域クラブの拡充と同時に、今後、可能性がある教員の兼職兼業に関する規則や運用の見直しを図りつつ、市内の人材・事業者を活用した指導者確保のための要件及び研修制度の確立を目指す。また、これまでの取り組みを通じて、安定的な指導者配置が行えているところもあることを踏まえ、学校体育施設の活用にあたっての整備に関しても具体的な試算及び本市での導入・運用を検討していく。

アンケート結果・参加者の声

●ヒアリング結果

【運営管理について】

- 地域移行（展開）の取り組みは有り難いが、実証期間での実施だと継続性に欠けるため、実証（契約）期間以外でも実施できる体制を整えて欲しい（指導者への対価支払いなど）。
- 持続可能な活動には指導者の確保然り、制度が整い財源が確保された状態でないと難しい。これらが不安定な中では生徒・保護者含めて混乱を招くことにもなり、踏み込めない気持ちもある。
- 移行期間は平日と休日で学校との連携は必要不可欠であること、且つ学校への結びつきがあるため、保護者対応や調整事項はなくなる。学校側で対応することや責任の所在を明確にして、学校と地域クラブ指導者・団体が双方で理解した上で実施しないと、ただただ混乱が生じてしまうため、整理が必要。

【指導者について】

- 地域移行（展開）を行いたいが、継続的に実施できる指導者が確保できるのか、すぐ見つかるのかが不安。
- 指導者が平日と休日で変わると関係性の構築や指導法に違いが出てくるのが懸念。将来的には平日も実施するとなると同じ指導者が担えるか、そのような人材がいるのかが分からない。

【活動場所・学校体育施設の活用について】

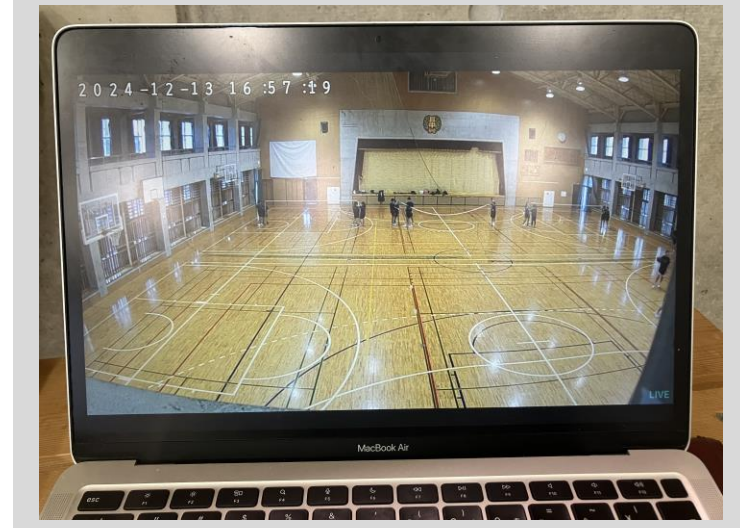
- 指導者が配置されているところは施設利用の課題の方が大きい。
- 学校側が安心して施設を使用してもらえよう、安全な鍵の管理や施設を適切に使用できるよう整備をお願いしたい。
- 学校と地域クラブ活動が学校体育施設を使用する場合、備品（ボールやシャトルなど）の供用も考えられるが紛失や破損があった場合の弁償などの棲み分けが必要。

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【スマートキーボックス設置状況】



【クラウドカメラ設定状況】



【クラウドカメラ選定機器仕様】 ※Safie案内パンフレットより抜粋

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

市長部局、市教育委員会、総括コーディネーター、エリアコーディネーター、学校、市体育協会、地域指導者（近隣地域含む）

経過

●経過

令和5年4月に「うるま市の中学校運動部活動地域移行推進計画」を策定し、本推進計画を基に令和5年度以降、地域展開の取り組みを実施してきたところである。顧問をはじめとする学校側の課題感が高い学校及び部活動を優先に地域クラブへの移行の実証実施を進めてきた。実施に当たっては地域人材を中心に指導者の配置を行い、指導者には資質の担保と基本知識の習得を目的としたe-Learning学習の研修受講を必須とするなど、人材の「質」の向上に努めた。

●実施にあたって生じた課題

〔学校体育施設の有効活用〕 地域連携の延長で地域クラブ運営が確立しつつあるところでは施設利用の課題が大きいことが分かった。施設利用の在り方として予約管理や鍵の管理、安心安全な環境整備としてICTを活用した仕組みづくりを協議し、導入検討を進めている。

〔教員の異動等に左右されない地域展開の体制整備〕 顧問の新規配置や指導者の状況により地域展開の実施調整が前年度と変わることがある。そのため、教員の兼職兼業の規則や運用見直しに加えて、地域指導者が持続的に関わることのできる環境・制度設計が必要であり、これらの検討と協議を進めている。

●今後の展開

本市には約80以上の部活動がある中で、全てを学校・部単位で地域クラブを設置することは困難である。そのため、生徒数や学校区を勘案した適切な地域クラブ数の設置が求められてくる。その上で、地域クラブ数に相応する収支バランスを踏まえた財源の確保及び参加費の価格設定と徴収の在り方検討を行う。それに伴い、学校及び保護者に対して、子どもたちの持続可能なスポーツ環境の整備に関する周知説明会やパンフレット・PR動画等を活用しての理解促進のための取り組みを実施する。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ*

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
方針・制度設計			
検討委員会の設置・運営		→	→
推進計画の見直し・策定		→	→
教員の兼職・兼業の規定及び運用の見直し		→	→
平日含めた地域展開の方針を決定（推進計画）		→	→
実施主体・地域クラブ運営			
実施主体（地域クラブ）認証・基準づくり		→	→
地域団体等との連携・協議	→	→	→
実施主体の認定・運営			→
指導者・研修制度			
指導者基準・条件の整理		→	→
研修・認証制度の整理		→	→
人材バンクの設置・募集・運営			→
財源の確保・参加費の設定			
経済困窮家庭への支援制度の検討・方針決定		→	→
企業版ふるさと納税含む財源確保の仕組みづくり	→	→	→
参加費の設定・周知・受け入れ			→
学校体育施設の有効活用			
学校施設利用方法（指定管理制度・予約システム含む）の見直し		→	→
ICT活用の導入・運用		→	→
学校体育施設の安心安全な仕組みづくり	→	→	→

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

沖縄県 南城市

自治体名： 沖縄県南城市

担当課名： 生涯学習課

電話番号： 098-917-5369

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	49.94 km ²
人口	46,929 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	1,633 人
部活動数	46 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市の人口は、H17年からR1年にかけて全体として微増傾向にあるが、那覇市に近い西側では都市化が進み、人口増加が見られるものの、東側では少子高齢化が進み、生産年齢層が減少している。そのため、市内でも中学校の在籍生徒数に開きがあり、小規模校～大規模校と地域によって差が出ている。

本市中学校は、市内に5校あり、うち1校が離島にある。なお、高等学校がないことから、中学校卒業後は市外の学校に進学する流れとなっている。中学校部活動においては、教員及び部活動指導員、外部指導員を中心に指導が行われ

ており、教員の長時間労働是正や業務負担軽減の検討が必要となっている。

中学校の概要

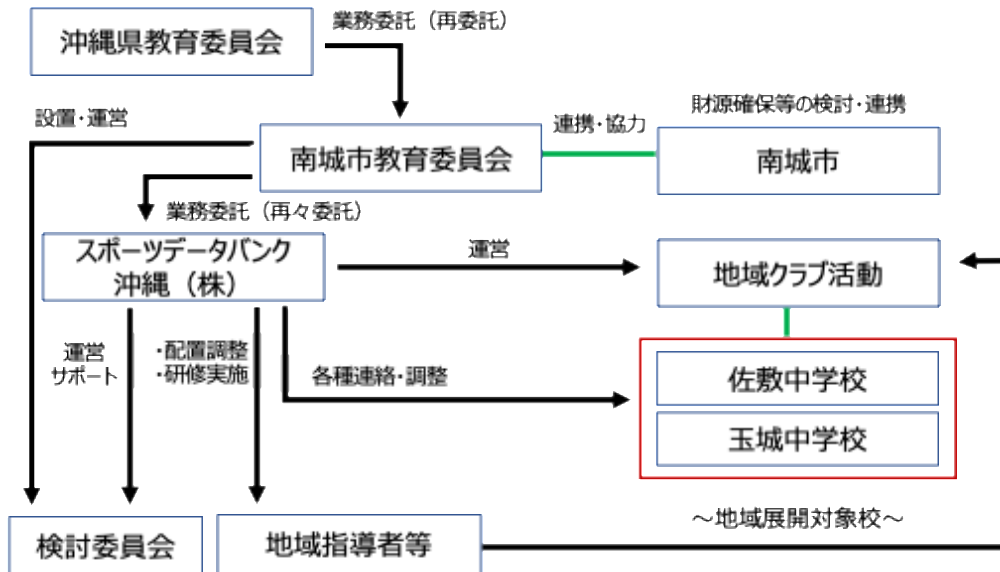
(各年度5月1日現在)

学校名	令和元			令和2			令和3			令和4		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
玉城中学校	205	216	421	209	207	416	228	212	440	228	228	456
知念中学校	83	60	143	88	59	147	80	64	144	67	68	135
久高中学校	9	3	12	9	5	14	7	4	11	7	8	15
佐敷中学校	168	183	351	180	183	363	195	205	400	209	208	417
大里中学校	262	230	492	260	248	508	280	266	546	302	274	576
合計	727	692	1,419	746	702	1,448	790	751	1,541	813	786	1,599

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・ 本事業の主管課・方針の決定
- ・ 学校への通達及び調整
- ・ 検討委員会の設置、委員選定

◎首長部局

- ・ 教育委員会との連携
- ・ 財源確保に関する検討、連携
- ・ 学校体育施設の有効活用に関する検討、連携

年間の事業スケジュール

令和6年06月	・契約締結 ・庁内関係部署との打ち合わせ
令和6年07月	・対象地域クラブの学校調整 ・庁内勉強会
令和6年08月	
令和6年09月	・対象地域クラブの決定 ・指導者の選定・決定 ・指導者研修
令和6年10月	・保護者説明会 ・庁内勉強会
令和6年11月	・実証スタート①
令和6年12月	・実証スタート② ・実態調査アンケート
令和7年01月	・実証後ヒアリング
令和7年02月	・事業完了報告

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A: 部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2クラブ（バレーボール）
	B: 部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		—
全体の指導者数	5人	全体の運営スタッフ数	3人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に （新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
南城市 地域クラブ	民間 事業者	男子 バレーボール （佐敷中）	月3回程 度	主に 午後	2年生 1年生 （9名）	令和6年11月～ 令和7年1月	学校 体育館	2人	3人 （内、兼務×3人）	なし	【中体連】 部活動 【その他】 地域クラブ
南城市 地域クラブ	民間 事業者	男子 バレーボール （玉城中）	月3回程 度	午前or 午後	2年生 1年生 （11名）	令和6年12 月～令和7年1 月	学校 体育館	3人 ※指導実績 3名	3人 （内、兼務×3人）	なし	【中体連】 部活動 【その他】 地域クラブ

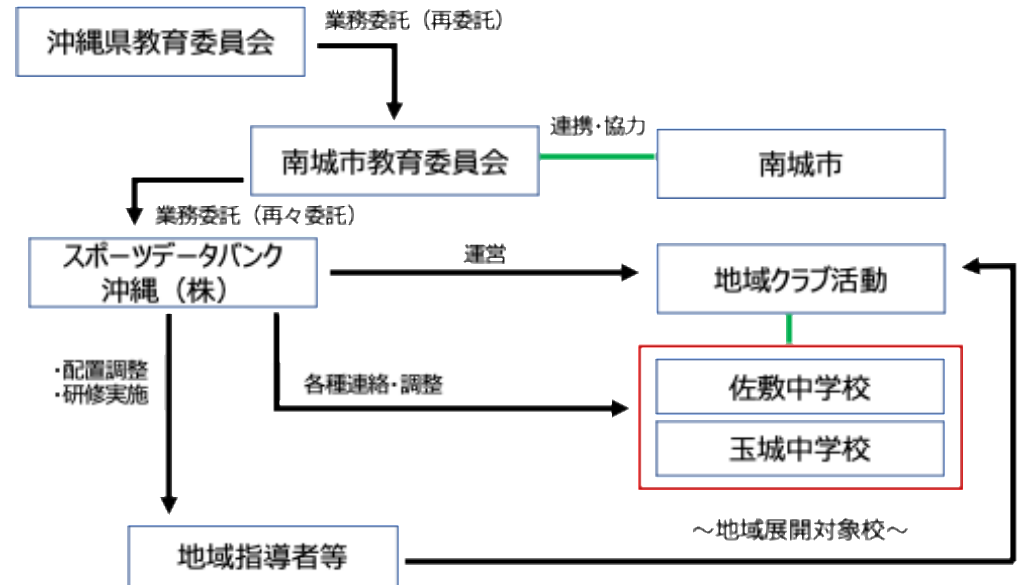
2.実証内容と成果

主な取組例

●南城市クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	男子バレーボール①②（2クラブ）
運営団体名	スポーツデータバンク沖縄株式会社
期間と日数	①：令和6年11月12日～令和7年1月25日 ②：令和6年12月14日～令和7年1月18日 （実施期間中：月2～3回程度）
指導者の主な属性	①②地域指導者（外部コーチ）
活動場所	①②学校体育館
主な移動手段	①②徒歩、保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	①②：0円（徴収なし）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

[運営スタッフ]

➤ 統括責任者

役割：運営管理の総括的な監督を担う

➤ マネージャー・コーディネーター

役割：運営管理・進捗確認を行う（指導者調整・説明会等の実施含む）

[指導者]

役割：研修を踏まえ、適切な地域クラブ活動の運営・活動実施を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

□ 年度内に3回の検討委員会を実施し、学校・地域団体等との情報共有と検討事項の共有を行なった

□ 民間企業に委託し運営主体を含む事業設計や体制構築を図った

取組成果および今後の課題と対応方針

□ 民間企業を活用することにより、専門的なノウハウや地域移行のステップを庁内で共有することができた。また、県内・県外の事例を取得することで、本市における地域移行の推進を前提とした持続可能な体制づくりの検討が進んだ。

□ 本年度中に本市における具体的な方向性やロードマップを示すに至らなかったため、専門ノウハウを要する民間企業を活用し、次年度は本市における推進計画やモデル構築を早期に実施する。



□ 検討委員会 委員

委員

- ・南城市立中学校 校長および教員
- ・南城市立中学校 P T A 連合会
- ・南城市体育協会 事務局長
- ・南城市スポーツ少年団 本部長
- ・総合型地域スポーツクラブ 代表
- ・南城市スポーツ推進委員 会長
- ・地域指導者
- ・沖縄県部活動地域移行総括コーディネーター

主な議事

第1回

- ・部活動地域移行の背景と目的
- ・令和6年度 南城市の取組み案
- ・先進事例の共有
- ・意見交換

第2回

- ・実証事業 進捗状況について
- ・点地域による施策課題 進捗状況について
- ・意見交換

第3回

- ・実証の成果報告について
- ・アンケート結果および分析結果について
- ・意見交換

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：**指導者の質の保障・量の確保**
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

令和5年度に実施したアンケート調査の結果、ライセンス取得の義務化を設けている団体がある一方で、研修においては実施しておらず、情報の発信に留まっている団体があることがわかった。それを踏まえ、団体連携に向けた条件整備及び市内関係団体への具体的な説明による連携の可能性検討や確保を目指すとともに、運営主体における地域クラブ活動指導者へe-learningを活用した研修を実施し、地域クラブの指導者に向けた指導者研修を整備し、指導者の質の保証や指導者の育成を目指す。

取組の成果

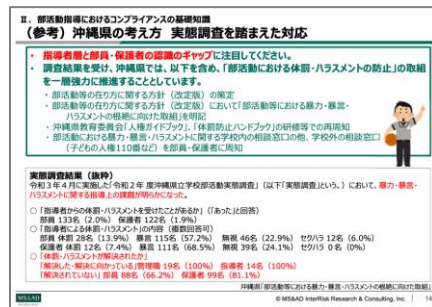
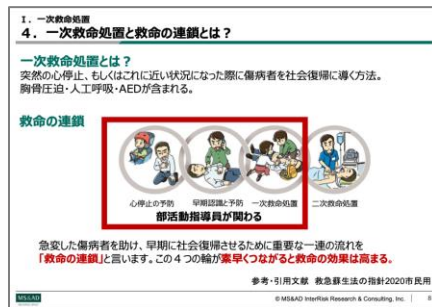
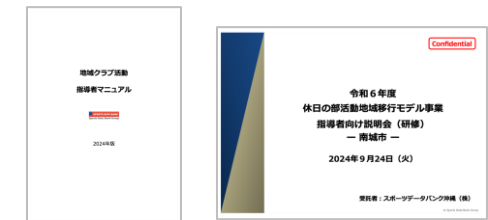
本市が地域クラブ活動の指導者として配置する指導者には、種目に関わらず指導者に共通して必要とされる資質の向上を図ることを目的としたe-Learning研修を提供し受講を必須とした。パソコンやスマートフォン、タブレットから受講できることや繰り返し受講が可能で今回のe-Learning研修は、指導者に合った時間で受講することができた。アバターによる解説付きのナレーションで受講できるため、場所を問わず学習することができ、質の保障に結びつく研修の一つとして位置付けられた。

指導者の主な属性

- ✓ 市内中学校における外部コーチ
- ✓ 体育協会所属
- ✓ 審判資格保有者
- ✓ 保護者（競技・指導歴あり）

その他研修

運営事業者が保有する指導者研修（活動中の留意事項）及び南城市における地域クラブ活動の方向性や趣旨目的の理解を深める説明会を実施。



▲ e-Learningイメージ画像

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

1. 自然災害への対応	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の基礎知識（特徴、過去の被害 など） 風水害対策について（指導中止・中断の判断 など）
2. 救急蘇生法 一次救命処置と熱中症	<ul style="list-style-type: none"> 一次救命処置（救命の可能性と時間経過 など） 熱中症（熱中症の重症度と症状・治療 など）
3. 部活動における防犯	<ul style="list-style-type: none"> 少年法と犯罪発生状況（少年法に関する知識 など） 防犯から見た体罰（体罰の定義など）
4. コンプライアンスの重要性と ハラスメントの防止	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスとは（部活動指導におけるステークホルダーの期待 など） 事例と解説（不適切行為の事例 など）
5. 子どものメンタルヘルス不調と対応	<ul style="list-style-type: none"> 思春期のメンタルヘルス（思春期の特徴） こころの不調への気づきと対応（声かけのポイント など）
6. 個人情報の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の基本（真に守ってほしい情報の理解 など） ソーシャルメディアの利用と情報漏えい（利用上の留意点 など）



確認テストの実施



各項目のe-Learning学習後にある確認テストにおいて、満点（100点）を取得することで「合格」としている。

受講者の声

Q. 地域クラブ活動に関する研修内容（e-Learning）について、特に役立った内容

①救急蘇生法（一次救命処置と熱中症）②コンプライアンスの重要性とハラスメントの防止③子どものメンタルヘルス不調と対応

→緊急時の対応など改めて学び直すことができ、また繰り返し受講できるため、知識として身につけられるものであった。

今後の課題と対応方針

今後、地域クラブの拡充を見据えて、指導者募集に際して「量の確保」の観点からは指導者に求める保有資格や研修受講の整理を行い、関係団体とライセンス取得などの支援も視野に取り組んでいく。

「質の保障」の観点からは、e-Learning研修と合わせて、本市が今後検討・設定する指導者要件を満たすための研修の在り方や受講支援等の施策も検討を行なっていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

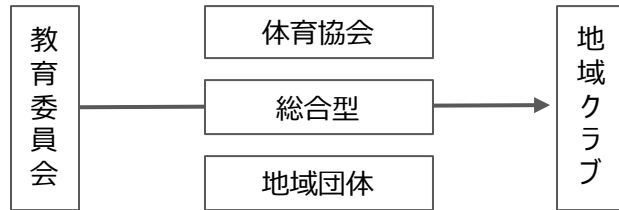


取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 検討委員会を通じた市内団体を中心とした実施主体（受け皿）や人材の確保の検討
- 体育協会や総合型地域スポーツクラブ、各種団体との連携による指導者等の確保
- 求める人材像の検討及び人材バンクの設置検討



取組成果および今後の課題と対応方針

- 市内団体が実施主体となる場合については、体制（人員・ノウハウ）が整っている状況ではないため、引き続き検討が必要である
- 受け皿や指導者を確保するための基準や責任所在の明確化が必要であるため、次年度に基準づくりを行うことで具体的な受け皿・指導者確保を行う
- 沖縄県教育委員会が連携協定を締結した「ブカツ・サポート・コンソーシアム（ブカサポ）」等、民間企業と連携した指導者確保等の課題解決を行う県内自治体の事例を本市においても実現を目指す（右図）

● 第1弾：沖縄県教育委員会との連携協定（2024.9.12予定）

連携協定

× × 三井住友海上 × 日本郵政

連携自治体 ▶ ブカツ・サポート・コンソーシアム（通称：ブカサポ）

部活動の地域連携や地域スポーツクラブ活動移行に向けた環境の一体的な整備事業
（重点地域施策への取り組み）

事業委託（再委託）

沖縄県教育委員会

連携

ブカサポ

Sports Data Bank Group
 三井住友海上
 日本郵政

再々委託

重点施策 実証地域

- ▶ 宜野湾市
- ▶ 石垣市（※1）
- ▶ うるま市
- ▶ 糸満市
- ▶ 南城市
- ▶ 宜野座村

お帰らない。

ブカサポ支援メニュー（※2）の提供による
課題対応に向けた実証実施

課題への対応（重点施策の主な取り組み：例）

人材の確保（技術指導者・アシスタント）	地域クラブの管理
地域コーディネーターの配置	指導者の認証・認定基準づくり
アスリートの活用	近隣の地域間における連携
学校体育施設の有効活用	オンライン指導
	参加者の移動

令和6年度スポーツ庁・部活動の地域展開や地域スポーツクラブ活動移行に向けた環境の一体的な整備事業
（重点地域施策への取り組み）

沖縄県宜野座村の取り組み

- ◆ 指導者等を対象とした「**JSPQ公認スポーツコーチングリーダー**」養成講習会の受講および資格取得プログラムの提案 ※特別協賛：日本郵政株式会社
- ◆ リスクの軽減・回避に繋がる「**リスク対策eラーニング**」の提供。加えてスポーツ活動等を行う子どもたちや指導者等を対象とした、活動中のケガや賠償責任を補償する「**スポーツ安全保険**」の加入促進。
- ◆ 名護大郵便局社員が上記、研修メニューを受講し宜野座村バドミントン地域クラブ指導者として、2024年11月より活動。

SPORT

【特別協賛：日本郵政株式会社】
日本郵政グループ協賛企業
スポーツコーチングリーダー養成講習会オンライン講座
受講修了証明書

No. 2024-0224-01-0000002

受講者名：[氏名]

受講科目：【特別協賛】日本郵政株式会社「スポーツコーチングリーダー養成講習会オンライン講座」受講修了

受講日：2024年11月14日 至 2024年11月14日

発行：[氏名] 指導者

▲ 資料提供：ブカツ・サポート・コンソーシアム

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

□ 教員、生徒、保護者への部活動及びスポーツ・文化活動に対する実態調査の実施

対象		内容	結果
a	生徒・児童 ① 生徒（全生徒） ② 児童（小学5・6年生）	<ul style="list-style-type: none"> スポーツおよび文化活動の実施状況（学校部活動含む） 学校部活動の意義および課題 地域クラブに関する希望 地域クラブ移行に関する期待および懸念 など 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動に所属する意義は技術・体力向上の他に、交友関係やの広がりや興味のある活動ができること 半数以上は現在の部活動の実施頻度に満足している
		<ul style="list-style-type: none"> スポーツおよび文化活動の実施状況（学校部活動含む） 費用負担（活動費等）の状況 学校部活動の意義および課題 地域クラブ移行に関する期待および懸念 など 	<ul style="list-style-type: none"> 地域クラブへの移行に関して送迎や経済負担を不安視している 全体の7割程度は費用負担に関して理解を示している 「部活動の地域移行」について周知が広がっていない
c	④ 教員（中学校）	<ul style="list-style-type: none"> 学校部活動への負担感 学校部活動の意義および課題 地域クラブ移行に関する期待および懸念 地域クラブでの指導希望 など 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の9割程度が学校部活動が「負担」と感じている 全体の2割程度が地域クラブの指導者として関わることを希望している
	⑤ 教員（小学校）	<ul style="list-style-type: none"> 地域クラブ移行に関する期待および懸念 地域クラブでの指導希望 など 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の3割程度が地域クラブの指導者として関わることを希望している

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

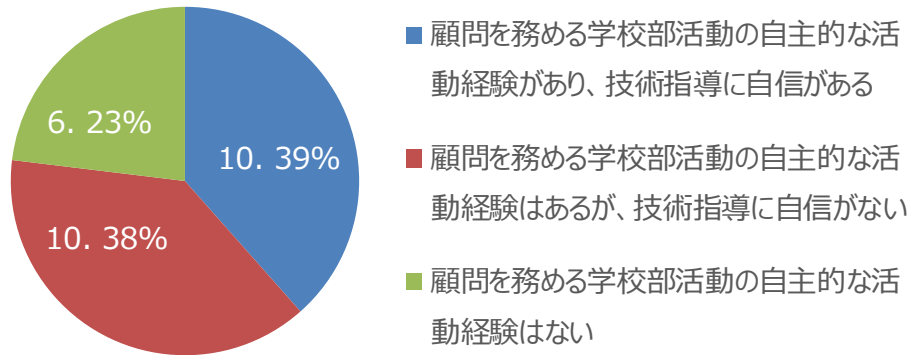


取組内容

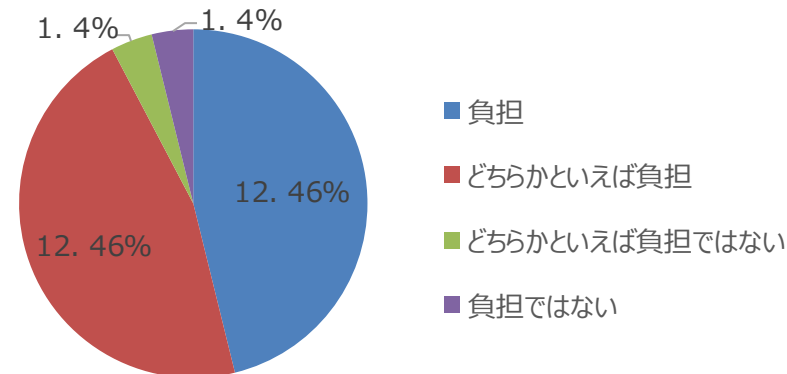
●取組項目名 オ：内容の充実

調査結果 -教職員（中学校）対象アンケート-

顧問を務める学校部活動の経験や専門性はありますか n= 26



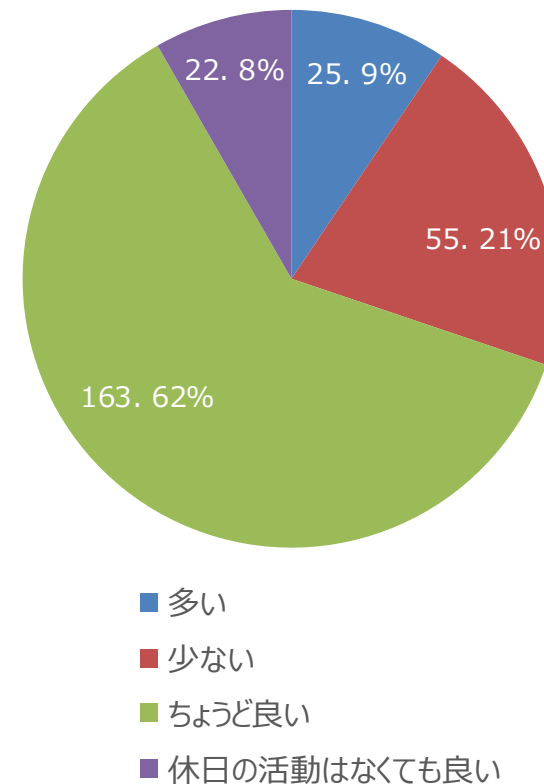
学校部活動は負担に感じていますか n= 26



調査結果 -生徒（中学校）対象アンケート-

所属する学校部活動の「休日」の活動について日数や時間をどう思っていますか

【学校部活動のみに所属している】生徒の回答 n= 279



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等（企業版ふるさと納税の検討）

取組事項

本市では、企業版ふるさと納税等の寄付の受入を整備しているが、地域クラブ活動の体制整備に対して民間資金を活用できてない状況にある。受益者負担の軽減と持続可能な運営費用を確保するために、県内の事例や全国の取組みに関して調査・事例収集を行い、今後の民間資金の活用可能性を目指す。庁内関係各所との連携体制を整備し、企業版の他にも指定寄付などの活用についても検討を行うため、庁内勉強会を定期的の実施を行い、次年度以降の取組みの方向性を見出していく。



▲ 庁内勉強会資料（抜粋）

※企業版ふるさと納税活用までの流れや全国各地の取組み例を共有

□ 庁内勉強会 実施概要

参加者

- ・南城市総務部 財政課
- ・南城市企画部 観光商工課
- ・南城市企画部 DX推進課
- ・南城市教育部 教育指導課
- ・南城市教育部 教育施設課
- ・委託事業者（スポーツデータバンク沖縄（株））

主な議事

- 1 回目
 - ・地域クラブ活動の取組みに関すること（財源確保の必要性理解のための勉強会）
 - ・意見交換
- 2 回目
 - ・企業版ふるさと納税の全国事例
 - ・企業版ふるさと納税等の活用方法の検討
- 3 回目
 - ・企業版ふるさと納税活用の進め方
 - ・地域クラブ活動にかかる費用試算の実施検討

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等（企業版ふるさと納税の検討）

今後の課題と対応方針

● 企業版ふるさと納税等の寄付の活用

本市では、企業版ふるさと納税等の寄付の受入を整備しているが、地域クラブ活動の体制整備に対して民間資金を活用できてない。そのため、庁内関係各課との連携体制を整備し、企業版の他にも指定寄付などの活用についても検討を行なった。

令和6年度中に3回の庁内勉強会を実施し、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が成立したことにより、本市は平成28年に「南城市人口ビジョン」及び「南城ちゃーGANJU CITY創生戦略」を策定していることを確認した。さらに「南城ちゃーGANJU CITY創生戦略」は企業版ふるさと納税の再生計画に位置付けているものであるが、本戦略に現在は地域クラブ活動の事業に関連づける項目（分野）がないことも明らかになり、企業版ふるさと納税を活用するため、まずは事業を紐づける「分野」の追加を行うために検討や調整を行う計画づくりが必要である。

本市としては、令和8年度の企業版ふるさと納税の活用を開始するために、令和7年度中に関係課との連携を継続し「分野」追加・寄付の受入体制の構築を行う予定である。



南城ちゃーGANJU CITY創生戦略 アクションプラン

沖縄県 南城市
平成28年8月

分 野	ひと ～ まちに活気を与える出会いと交流を促進するとともに、南城市の魅力を広く発信する ～
分 類	教育・文化

(1) 現在の課題

本市の各地域には新旧問わず、多くの芸能が存在し、その地域のアイデンティティとして人々を元気にしている。しかし、その影で伝統が途絶えてしまったものや、継続しているが、なかなか表に出る機会が少ないものも多く、本市としてすべてを網羅できていない現状がある。特に市内には、沖縄の歴史・文化の発信に因る歴史遺産が豊富にあり、各ムラヤーにおいては独自の民俗芸能を有しており、年中行事の中では活発な披露がなされている一方で、これまでも、その一部は文化センターで上演される機会があったが、継続できていない現状があり、民俗芸能の集約的かつ持続的な上演の場として文化センターを活用、広く市民に対する鑑賞の場として提供し、新たな文化芸術の観光拠点として位置づける取り組みが必要である。

また、公立文化施設である南城市文化センターの今後の運営・管理については、専門的な知識を有する事業者への業務委託、指定管理者制度の導入について検討する必要があるとともに、開館から22年経過しており、各種付属設備の取替の必要性がでてきているほか、屋外ステージ屋根の改修が必要となっている。

(2) 必要対応：①県立芸術大学と南城市の包括連携事業、②芸術による地域活性化推進事業、③南城市文化センター指定管理者制度導入検討委員会、④文化センター機能強化事業

①県立芸術大学へ委託研究調査を依頼、担当教員及び調査者の選定後、南城市の各地域に継承される伝統芸能（民俗芸能）の実態調査のほか、文献調査（市町村誌等）、上演対象の絞込、聞き取り調査（実演継承者、区長等）、資料収集（映像、写真、上演記録）を行い、報告書（CD-ROM）を作成するとともに、結果を踏まえ、各地域の伝統芸能（民俗芸能）の公演を実施する。

②学生による南城市の資料収集及びフィールドワークの実施、地域の青年団との芸術交流（地域の芸能を県立芸術大学生に伝授を希望）、ムラヤーでの子供たちへの学生によるワークショップの開催（土日）、「南城市伝統芸能祭」（H28年度）の開催（※）及び翌年度以降の継続開催、併せて伝統芸能の創造型舞台公演の実施

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

本市では、令和5年度から市内中学校の体育施設にスマートロックを導入し運用を開始しているが、今後、地域クラブ活動の活動場所の拠点となり得る学校体育施設のより効果的な活用や安全面の強化など、運営管理に関する仕組みを検討するため、学校体育施設内の安全管理の向上等として、クラウドカメラの設置検証を行う。

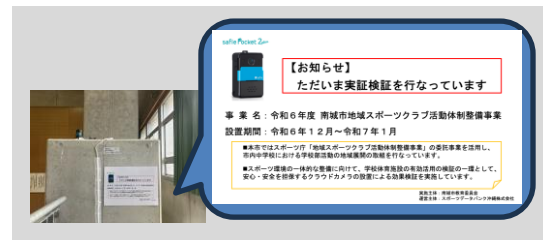
取組の成果

【クラウドカメラの設置】

今回、検証のために設置した機器は置き型タイプの1台であったため、全体が映せる設置場所が限定的となっており、設置校の構造上ではカメラが剥き出しとなるため、ボール等が当たった場合に破損等の心配の恐れがあった。また、生徒たちが不用意に触れ落下すること等のないよう、張り紙を掲示するなどの対策を講じた。今後、導入可能性に向けては、機器の仕様（現状復帰が前提となるものか、工事を要するものでも破損等が発生しづらい場所への設置ができるもの等）、ランニングコストを踏まえた比較検討を行う必要があることが分かった。



▲ 設置機器（Safie 製品案内資料より）



▲ 周知に掲示した張り紙



▲ 地域クラブ活動の様子（クラウド上からの確認画面）

今後の課題と対応方針

本市では、体育施設の使用予約及びスマートロックの暗証番号の付与について担当職員が行っている現状にある。今後、体育施設内の使用にかかる安心の担保や安全性の向上をクラウドカメラの設置により効果を位置

付けていくとともに、利用者の一元管理ができる仕組み構築も検討していく。

施設予約
(空き状況の確認・予約・決済)

施設利用 [スマートロックキー]
(鍵の開錠施設)

施設利用 [クラウドカメラ]
(施設活動の安全管理)

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本実証では、顧問教員の負担があり且つ指導者候補（外部コーチ等）がある学校と種目から選定を行い実施した。指導者確保はスムーズに進められた一方で、学校との連携や参加しない選択をした際の学校部活動での練習との差に懸念を示す声があった。このことから、地域クラブ活動は任意の参加であっても移行期間中における平日の学校部活動との関係性やバランスにも留意する必要があり、学校・保護者に対して、将来的な展望及び平日との連動性についても整理や連携体制の構築が求められることが分かった。これらを踏まえ、実証を含めた今後の地域移行の計画や方向性を示した推進計画の策定と周知が急務になると感じたところである。

また、活動場所の環境整備にあたっては、鍵の管理だけでなく、安心安全に活動が実施できるよう施設内の整備も大事な要素だと気付かされたところである。クラウドカメラの存在によって、有事の際には地域クラブ活動だけではなく学校教育課程のなかにおいても効果的な役割を担えることが期待されるため、体育施設の有効活用の推進も力を入れていきたい。

●成果の評価

今回、外部コーチに地域クラブ活動の指導者として活動いただいたところである。競技歴や指導歴はある一方で、資格は必ずしも全員が保有していることではなかったが、配置する指導者に対して、e-Learning研修の受講を必須とすることで、指導者の質を保障する一つとして研修制度の確立につながられたことは評価したい。市内団体には、ライセンス取得の義務化を設けている団体がある一方で、研修実施が行われていなかった背景も含め、今後、団体と協力しながら指導者の研修や必要とされる資格取得の支援なども検討を進めていきたい。

また、持続可能な運営に必要な財源確保の一つとして、企業版ふるさと納税の活用に向けて、庁内関係各所と今後の進め方の整理が行えたことは大きな一歩である。他部署にも地域展開の重要性を理解いただき、同じ方向性を向いて施策に取り組んでいく体制ができたことは成果として評価したい。

●今後に向けて

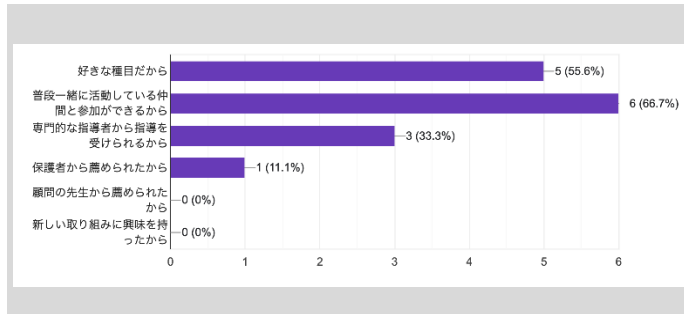
今回の実証を踏まえ、今後、地域クラブ活動の拡充を進めていくために、市としての方向性を示した推進計画を策定し、これらを学校や保護者、生徒及び関係団体（地域指導者を含む）に対して周知説明会の開催やPRを施していく。検討委員会及び実証校・クラブの現場から課題の抽出ができたため、次年度以降は、その課題に対しての具体的な取り組みに着手し、本市にマッチングする手法の確立と定着化を目指していく。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

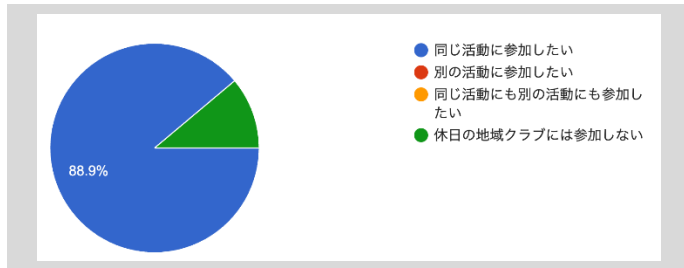
Q. 地域クラブ活動に参加した理由を教えてください



【上位3】

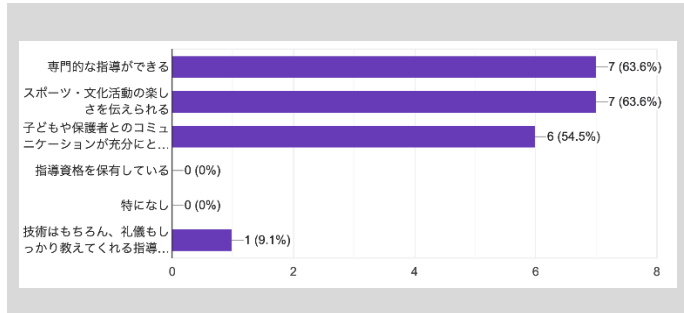
- ▶ 普段一緒に活動している仲間と参加できるから
- ▶ 好きな種目だから
- ▶ 専門的な指導者から指導を受けられるから

Q. 次年度も休日の地域クラブを継続した場合、参加したいと思うか



- 同じ活動に参加したい 88.9%
- 休日の地域クラブには参加しない 11.1%

Q. 指導者に求めるものを教えてください



【上位3】

- ▶ 専門的な指導ができる
- ▶ スポーツ・文化活動の楽しさを伝えられる
- ▶ 子どもや保護者とのコミュニケーションが充分にとれる

●参加者の声

参加生徒

- 救急箱をもらえて、それを実際使う機会があったので、とても助かった。
- 希望する活動ができ、勝敗や入賞にこだわらない気軽に楽しめる活動ができた

指導者

- クラブという事で、地域の社会体育館を予約しやすい、などの利点があれば、地域クラブ移行も、更に活発になるかと思った。

保護者

- 部活動からクラブへの移行をうたっているのに、部活動より魅力がない間は（費用面、送迎負担、体育館利用は部活優先）、クラブへの地域移行は厳しいと思います。

顧問教員

- 地域クラブ活動が活用されれば、教員の負担はかなり軽減されると思う。実際、私自身も軽減され、休日は家族の時間ができ、指導者の方にはとても感謝しています。これからもっと他の部活動にも取り入れられていけば教職員の業務改善に繋がると思います。

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【地域クラブ活動の様子（佐敷中）】



【地域クラブ活動の様子（佐敷中）】



【地域クラブ活動の様子（玉城中）】



【地域クラブ活動の様子（玉城中）】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

市長部局、市教育委員会、総括コーディネーター、学校、市体育協会、スポーツ少年団、総合型スポーツクラブ、地域指導者（近隣地域含む）

経過

●経過

本市では令和5年度から地域移行（展開）の取り組みを進めてきたところである。現在、学校部活動において外部コーチとして配置している指導者から順次地域クラブ活動への参画を調整し、実証を行ってきた。また、検討委員会では南城市モデルを確立するため、他市町村の事例を参考にしながらも市の実情に合った方向性を示していく必要がある議論が行われ、地域展開に関する推進計画の策定に向けてのアクションを次年度取り組むことの合意形成が図られたところである。

●実施にあたって生じた課題

保護者等に向けて理解促進のための周知期間が短かったことから地域クラブ活動への参加意思を決定するまでに時間を要する場面があった。市として、今後の地域展開の展望や方向性を学校だけではなく保護者に対しても十分な周知説明や理解を得る機会が今後の課題となり、実証の対象校だけではなく、地域に対して共通の理解を図る取組が必要である。

●今後の展開

今後、地域クラブ活動の拡充を進めていくために、市としての方向性を示した推進計画を策定し、これらを学校や保護者、生徒及び関係団体（地域指導者を含む）に対して周知説明会の開催やPRを施していく。地域への理解促進を深めるとともに持続可能な運営管理の手法確立を目指していく。そのなかには、学校体育施設の有効活用に向けた予約管理システムとスマートロックの連動・体育施設内の安全な環境整備、また配置する指導者の要件設定や安心して活動を行えるよう研修制度の充実に取り組んでいく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ^o

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
方針・制度設計			
検討委員会の設置・運営	→		
推進計画の検討及び策定		→	
教員の兼職・兼業の規定及び運用の見直し		→	
実施主体・地域クラブ運営			
実施主体（地域クラブ）認証・基準づくり		→	
地域団体等との連携・協議		→	
実施主体の認定・運営			→
指導者・研修制度			
指導者基準・条件の整理		→	
研修・認証制度の整理		→	
人材バンクの設置・募集・運営			→
財源の確保・参加費の設定			
経済困窮家庭への支援制度の検討・方針決定			→
企業版ふるさと納税含む財源確保の仕組みづくり		→	
参加費の設定・周知・受け入れ			→
学校体育施設の有効活用			
学校施設利用方法（指定管理制度・予約システム含む）の見直し		→	
ICT活用の導入・運用		→	
学校体育施設の安心安全な仕組みづくり		→	

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

沖縄県 宜野座村

自治体名： 沖縄県宜野座村
担当課名： 教育課
電話番号： 098-968-8522

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	31.30 km ²
人口	6,465 人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	262人
部活動数	8部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

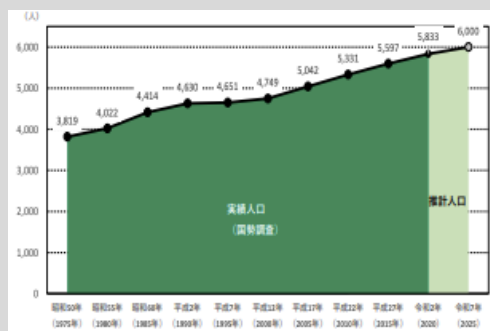
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

[現状]

- 令和7年を目標年とする将来人口は5,800人としていたが、令和2年の国勢調査では5,833人と目標人口を達成しており、人口は増加傾向。
※平成23年以降の児童数及び生徒数の推移も緩やかな増加傾向
- 村内には小学校3校、村全体を1校区とした宜野座中学校が設置されており、さらに県立宜野座高等学校が立地し、広域的な教育機関としての役割を果たしているが、近年、中学卒業後の進学は特に他自治体へ生徒が流出している現状

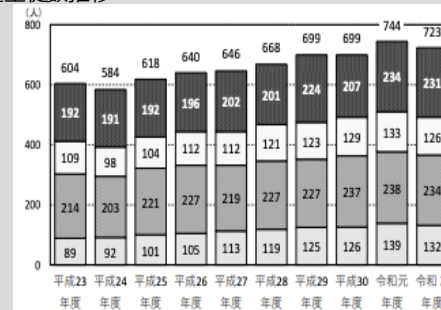
[課題]

- 地域クラブ活動の移行を契機とした魅力ある学校づくり・村内関係団体等の連携によるまちづくりを行うことで、生徒の他自治体への流出を止め、他自治体から本村の公立中学や県立宜野座高校へ流入効果を図る事が必要
- 生徒・保護者・教員のニーズ等を把握した上で、適切な方針・計画づくりを行うことが必要



出典：宜野座村 第5次宜野座村総合計画（後期基本計画）

■ 児童生徒数推移



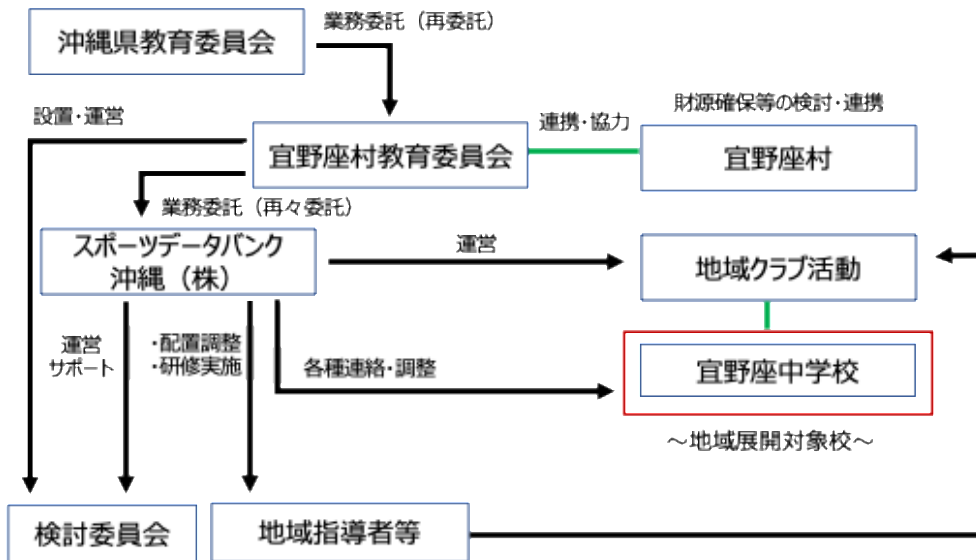
資料：沖縄県教育委員会「学校基本調査」、宜野座村教育課

出典：宜野座村 第5次宜野座村総合計画（後期基本計画）

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・ 本事業の主管課・方針の決定
- ・ 学校への通達及び調整
- ・ 検討委員会の設置、委員選定

◎首長部局

- ・ 教育委員会との連携
- ・ 財源確保に関する検討、連携
- ・ 学校体育施設の有効活用に関する検討、連携

年間の事業スケジュール

令和6年05月	・契約締結 ・庁内関係部署との打ち合わせ
令和6年06月	・対象地域クラブの学校調整 ・対象地域クラブの決定
令和6年07月	↓
令和6年08月	
令和6年09月	・指導者の選定 ・参加費徴収検討
令和6年10月	・指導者研修 ・保護者説明会①
令和6年11月	・保護者説明会②
令和6年12月	・実態調査アンケート ・実証スタート（ソフトテニス）
令和7年01月	↓
令和7年02月	

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A: 部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（ソフトテニス）
	B: 部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		—
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	3人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
宜野座村地域クラブ	民間事業者	ソフトテニス	週4回程度 ※平日含む	午前 午後	2年生 1年生 (8名)	令和7年1月	学校 テニスコート	2人	3人 (内、兼務×3人)	2,000 円	【中体連】 部活動 【その他】 地域クラブ

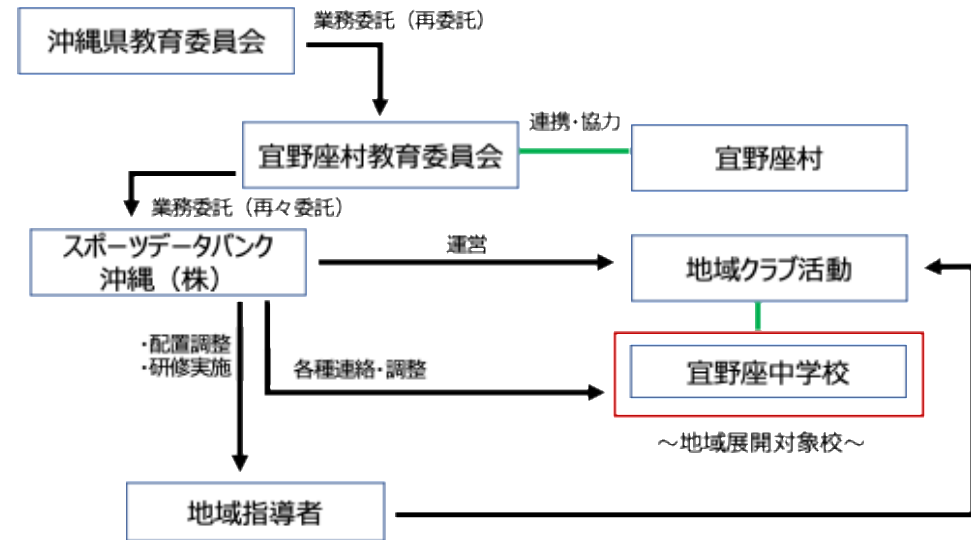
2.実証内容と成果

主な取組例

宜野座村地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトテニス
運営団体名	スポーツデータバンク沖縄株式会社
期間と日数	令和7年1月4日～1月20日 (実施期間中：週4回程度)
指導者の主な属性	地域の指導者
活動場所	学校テニスコート
主な移動手段	徒歩、保護者による送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	2,000円/人
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

[運営スタッフ]

➤ 統括責任者

役割：運営管理の総括的な監督を担う

➤ マネージャー・コーディネーター

役割：運営管理・進捗確認を行う(指導者調整・説明会等の実施含む)

[指導者]

役割：研修を踏まえ、適切な地域クラブ活動の運営・活動実施を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

[検討会議]

- 年度内に3回の検討委員会を実施し、学識者・学校・地域団体等との情報共有と検討事項の共有を行なった
- 民間企業に委託し運営主体を含む事業設計や体制構築を図った

[地域移行推進計画（初版）]

- 宜野座村学校部活動の地域移行推進計画（初版）案の作成を行なった（下図）

【概要】 宜野座村学校部活動の地域移行推進計画（初版） 令和7年4月

- 教員の長時間勤務等の課題があり、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなってきた
- 将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境を整えるため、地域の運営団体・実施主体による地域スポーツクラブ活動及び文化クラブ活動を新たに整備するための取組の方向性や留意点を示した「宜野座村 学校部活動の地域移行推進計画（初版）」を策定
- 「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下で、生徒の望ましい成長を保障できるよう、学校部活動に代わり、地域において持続可能な多様な環境を一体的に整備することにより、スポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することをめざす
- 2023（令和5）年度から2025（令和7）年度までの3年間を改革推進期間とし、休日の学校部活動の地域移行に取り組み、地域移行の進捗状況及び国や県の方針等を踏まえて、改革推進期間終了時に、村方針の見直しを行う

I 新たな地域クラブ活動	II 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備	III 大会等の在り方の見直し
<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域クラブ活動の運営団体・実施主体の整備充実（承認・認証の制度構築） ● 関係団体、学校等の関係者を集めた協議会などの体制の整備 ● 地域スポーツ・文化芸術環境を整備するため、専門性や資質・能力を有する指導者の確保 ● 適切な休養日等の設定 ● 会費の適切な設定と保護者等の負担軽減と企業版ふるさと納税の活用等 	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 休日の活動の在り方等の検討し、まずは、休日における地域の環境の整備 ● 首長部局や教育委員会の中の地域スポーツ・文化振興担当部署等との連携 ● 実情に応じたスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体制整備を段階的に推進 ● スポーツ・文化芸術団体、学校、保護者等の関係者に対する方針・取組内容・スケジュール等の周知 	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大会参加資格を、地域クラブ活動の会員等も参加できるよう見直し ● 教師以外が引率できる体制整備の検討

□ 検討委員会 委員

主な議事

第1回

- ・沖縄県の方針
- ・令和6年度 取組み
- ・アンケート調査概要
- ・意見交換

第2回

- ・実証事業 進捗状況
- ・国の方針（実行会議）
- ・宜野座村における基本方針
- ・意見交換

第3回

- ・実証の成果報告について
- ・アンケート結果および分析結果について
- ・地域移行推進計画（初版）
- ・意見交換



取組成果および今後の課題と対応方針

- 本年度中に推進計画（初版）の作成を行うことができた。次年度以降は、計画を方針と位置付け事業の推進を図ると共に、村民への丁寧な情報発信と周知等の拡大を目指す。
- 民間企業を活用し、専門的なノウハウや地域移行のステップを庁内で共有や地域クラブの運営を行うことができた。一方で、地域クラブの運営については、持続的な体制を構築する観点で課題が残ったため、継続的に検討・検証を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

本村では、今後、指導者認証基準（要件）の設定を検討していくところである。その一つとして研修制度の確立のため、e-Learningを活用した指導者研修の拡充と定着化を図っていく。

取組の成果

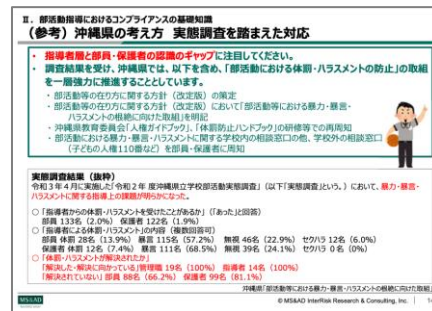
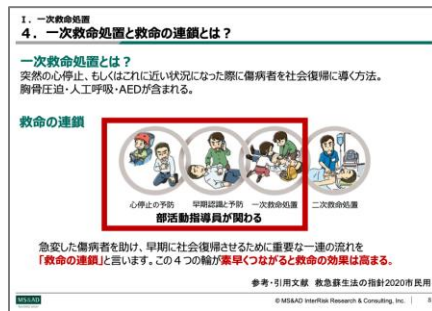
本村が地域クラブ活動の指導者として配置する指導者には、種目に関わらず指導者に共通して必要とされる資質の向上を図ることを目的としたe-Learning研修を提供し受講を必須とした。パソコンやスマートフォン、タブレットから受講できることや繰り返し受講が可能な今回のe-Learning研修は、指導者に合った時間で受講することができた。1項目あたり15分程度の時間で受講できる内容であるが、平日の仕事終わりに学習を進める点では、指導者によってはボリュームが大きいと感じられることもあった。一方で、何度も受講できる仕組みであったり、学習途中から再開できるなど、自分のペースで進められる点は、今後、様々な属性の指導者候補に対しても質の保障に結びつく研修の一つとして位置付けられた。

指導者の主な属性

- ✓ 市内中学校における外部コーチ
- ✓ 保護者（競技・指導歴あり）
- ✓ 郵便局員（*重点取組として）

その他研修

運営事業者が保有する指導者研修（活動中の留意事項）及び宜野座村における地域クラブ活動の方向性や趣旨目的の理解を深める説明会実施。



▲ e-Learningイメージ画像

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

1. 自然災害への対応	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の基礎知識（特徴、過去の被害 など） 風水害対策について（指導中止・中断の判断 など）
2. 救急蘇生法 一次救命処置と熱中症	<ul style="list-style-type: none"> 一次救命処置（救命の可能性と時間経過 など） 熱中症（熱中症の重症度と症状・治療 など）
3. 部活動における防犯	<ul style="list-style-type: none"> 少年法と犯罪発生状況（少年法に関する知識 など） 防犯から見た体罰（体罰の定義など）
4. コンプライアンスの重要性と ハラスメントの防止	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスとは（部活動指導におけるステークホルダーの期待 など） 事例と解説（不適切行為の事例 など）
5. 子どものメンタルヘルス不調と対応	<ul style="list-style-type: none"> 思春期のメンタルヘルス（思春期の特徴） こころの不調への気づきと対応（声かけのポイント など）
6. 個人情報の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の基本（真に守ってほしい情報の理解 など） ソーシャルメディアの利用と情報漏えい（利用上の留意点 など）



確認テストの実施



各項目のe-Learning学習後にある確認テストにおいて、満点（100点）を取得することで「合格」としている。

受講者の声

Q. 地域クラブ活動に関する研修内容（e-Learning）について、特に役立った内容

全て。

→個人的にボリュームがあるように感じられて全て受講するのに時間がかかったが、自分のペースで進められる点は良かった。

今後の課題と対応方針

「質の保障」の観点からは、e-Learning研修と合わせて、本村が今後検討・設定する指導者要件を満たすための研修の在り方や受講支援等の施策も検討を行なっていく。指導者募集に際して「量の確保」の観点からは、関係団体へ周知説明を行い協力要請を図っていく。また、地域の特性上、経験のある保護者がコーチングする種目もあるため、研修実施の充実や継続的な指導ができる環境整備を行なっていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

[村内資源の活用]

□ 宜野座高等学校と宜野座中学校における共通の種目から検討し、「バドミントン」で実証取組みを行なった

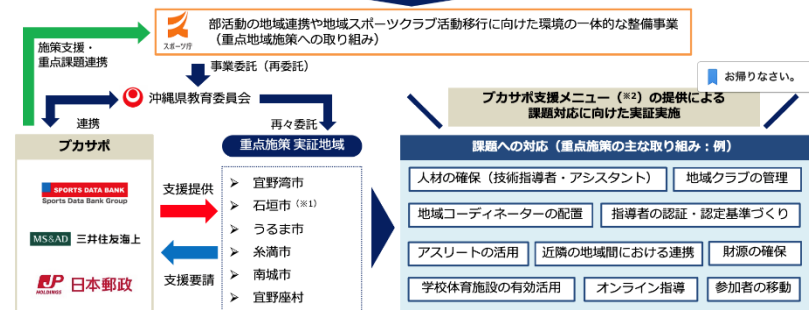
□ 活動実績

活動場所	宜野座中学校 学校体育館
指導者	・地域指導者（郵便局勤務） ・外部コーチ（宜野座中・宜野座高）
参加費	2,000円/名（税込）
参加生徒	8名（内、2名は初心者） ・小学生 2名 ・中学生 5名 ・高校生 1名



取組成果および今後の課題と対応方針

- 沖縄県教育委員会が連携協定を締結した「ブカツ・サポート・コンソーシアム（ブカサポ）」等、民間企業と連携した指導者確保等の課題解決を行なった。（右図）
- 活動場所確保の観点で、中学校施設以外の利用・活用をスムーズに実施できるよう課題整理および制度設計を検討する。



令和6年度スポーツ庁・部活動の地域展開や地域スポーツクラブ活動移行に向けた環境の一体的な整備事業（重点地域施策への取り組み）

沖縄県宜野座村の取り組み

- ◆ 指導者等を対象とした「**JSPO公認スポーツコーチングリーダー**」養成講習会の受講および資格取得プログラムの提案※特別協賛：日本郵政株式会社
- ◆ リスクの軽減・回避に繋がる「**リスク対策eラーニング**」の提供。加えてスポーツ活動等を行う子どもたちや指導者等を対象とした、活動中のケガや賠償責任を補償する「**スポーツ安全保険**」の加入促進。
- ◆ 名護大中郵便局社員が上記、研修メニューを受講し宜野座村バドミントン地域クラブ指導者として、2024年11月より活動。



▲ 資料提供：ブカツ・サポート・コンソーシアム

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

□ 教員、生徒、保護者への部活動及びスポーツ・文化活動に対する実態調査の実施

対象		内容	
a	生徒・児童	① 生徒（全生徒） ② 児童（小学5・6年生）	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツおよび文化活動の実施状況（学校部活動含む） ・学校部活動の意義および課題 ・地域クラブに関する希望 ・地域クラブ移行に関する期待および懸念 など
	保護者	③ 保護者（中学生）	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツおよび文化活動の実施状況（学校部活動含む） ・費用負担（活動費等）の状況 ・学校部活動の意義および課題 ・地域クラブ移行に関する期待および懸念 など
c	教員	④ 教員（中学校）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校部活動への負担感 ・学校部活動の意義および課題 ・地域クラブ移行に関する期待および懸念 ・地域クラブでの指導希望 など
		⑤ 教員（小学校）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域クラブ移行に関する期待および懸念 ・地域クラブでの指導希望 など

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組

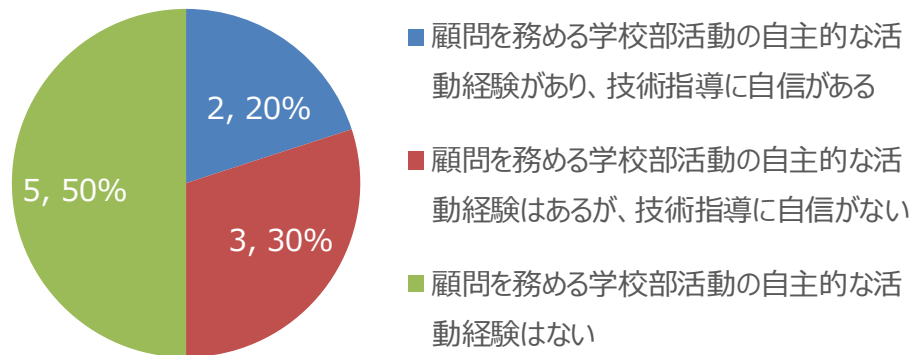


取組内容

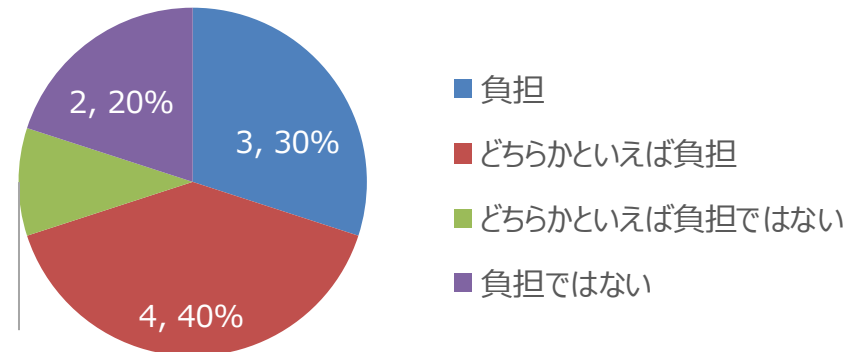
●取組項目名 オ：内容の充実

調査結果 -教職員（中学校）対象アンケート-

顧問を務める学校部活動の経験や専門性はありますか n= 10



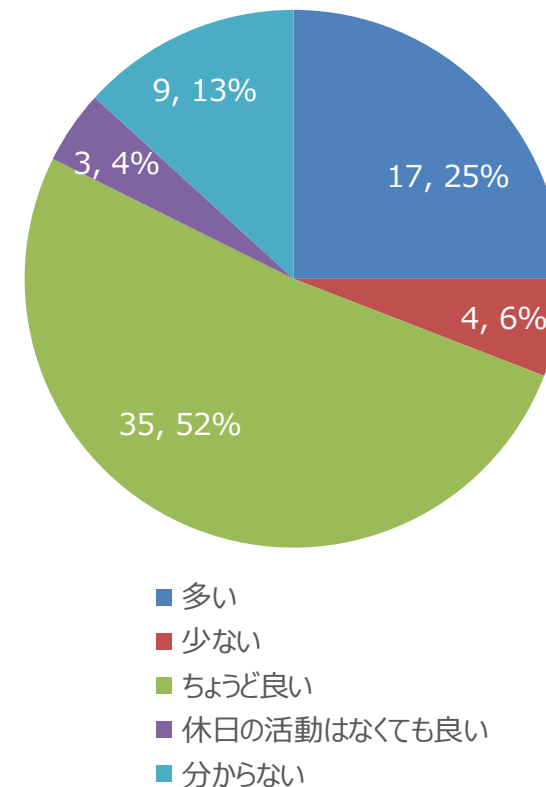
学校部活動は負担に感じていますか n= 10



調査結果 -生徒（中学校）対象アンケート-

所属する学校部活動の「休日」の活動について日数や時間をどう思っていますか

【学校部活動のみに所属している】生徒の回答 n= 68



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

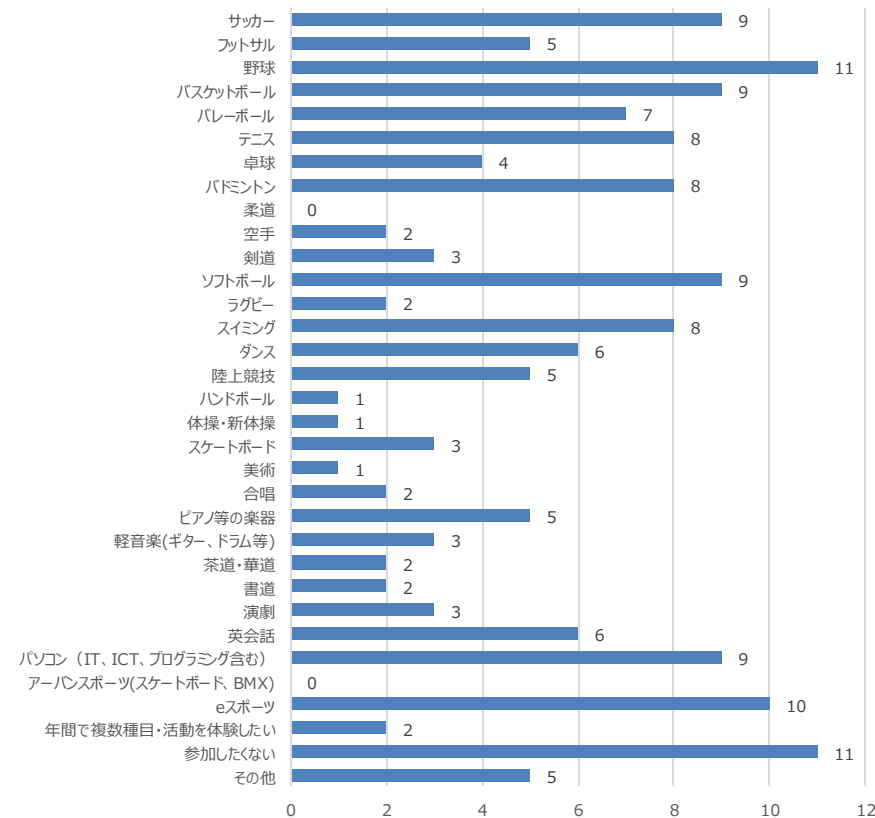
●取組項目名 オ：内容の充実

調査結果 -生徒（中学校）対象アンケート-

今後、学校部活動以外の活動として参加してみたい競技・ジャンルを教えてください（複数回答可）

【学校部活動のみに所属している】生徒の回答

n= 68

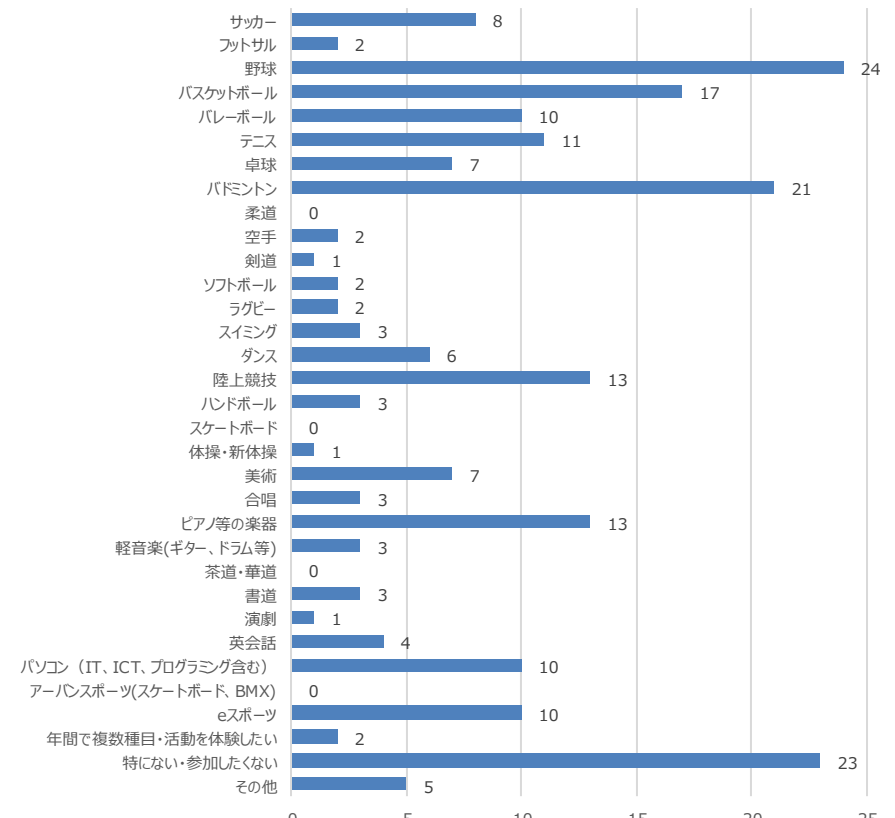


調査結果 -児童（小学校）対象アンケート-

今後、参加してみたい競技・ジャンルを教えてください（複数回答可）

【クラブ活動（部活動）スクール・習い事に参加している】児童の回答

n= 105



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等（参加費用徴収の検討）

取組事項

持続可能な地域クラブ活動の運営に向けて、参加者からの費用徴収の検証を行うとともに、経済面による子どもたちの体験格差が生じないよう、低所得者世帯への対応方法の検討及び財源確保として企業版ふるさと納税の活用に向けた方向性検討を進める。

取組の成果

今回、参加者一人当たり【2,000円/年】の参加費徴収を行うこととした。これには地域クラブ活動で必要となる消耗品（ボール等）の購入や、今後、指導者への報酬対価への担保などに充てることを試算し、今回の参加人数を想定した負担のない範囲で価格設定したところである。年会費だけでは収支マイナスがでることから月額制での検討の他、外部からの財源確保の取り組みが必要不可欠である。

■参加者10名想定

参加費	人数	合計
2,000	10	20,000

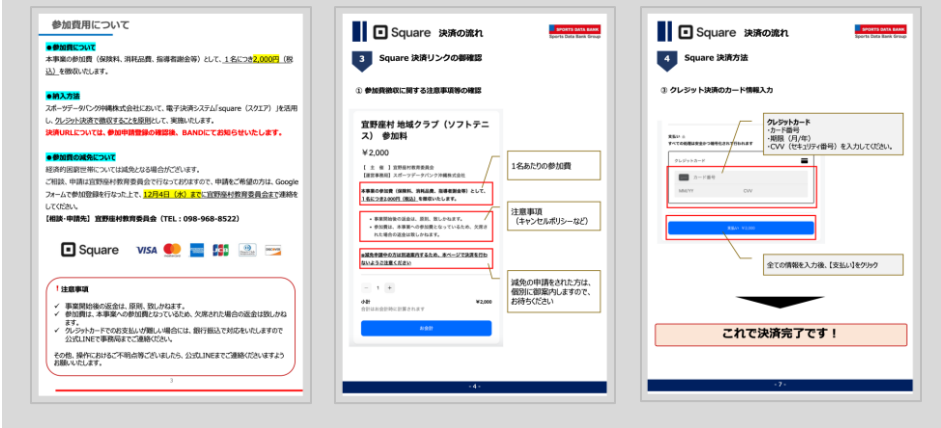
■消耗品購入想定

単価	式	合計
10,000	1	10,000

■指導者報酬想定

単価	人数	活動 (週4/月)	合計
1,600	2	16	51,200

参加費徴収に関する説明決済システムの操作方法 ※受託事業者作成資料より



地域クラブに係る経費

以下を想定とし、金額概算は次年度以降に算出と分析を実施する

■イニシャルコストの分析

- ・システム整備に係る費用
- ・ホームページ構築費用
- ・広報（チラシ等）作成費用
- ・事務用品

■ランニングコストの分析

- ・会場借料
- ・指導者謝金
- ・事務局人件費
- ・指導者研修費（資格取得費用含む）
- ・消耗品費
- ・大会参加費、登録費
- ・生徒&指導者管理システム使用料

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等（参加費用徴収の検討）

取組事項

持続可能な地域クラブ活動の運営に向けて、参加者からの費用徴収の検証を行うとともに、経済面による子どもたちの体験格差が生じないよう、低所得者世帯への対応方法の検討及び財源確保として企業版ふるさと納税の活用に向けた方向性検討を進める。

取組の成果

今回、参加者一人当たり【2,000円/年】の参加費徴収を行うこととした。これには地域クラブ活動で必要となる消耗品（ボール等）の購入や、今後、指導者への報酬対価への担保などに充てることを試算し、今回の参加人数を想定した負担のない範囲で価格設定したところである。年会費だけでは収支マイナスがでることから月額制での検討の他、外部からの財源確保の取組みが必要不可欠である。

■参加者10名想定

参加費	人数	合計
2,000	10	20,000

■消耗品購入想定

単価	式	合計
10,000	1	10,000

■指導者報酬想定

単価	人数	活動 (週4/月)	合計
1,600	2	16	51,200

The image shows a multi-page screenshot of the Square payment system interface. The pages are numbered 1 through 7. Page 1 is the registration page with fields for name, address, and phone number. Page 2 shows the '電子決済システム「Square（スクエア）」 決済の流れ' (Square payment flow). Page 3 is the 'Square 決済の流れ' (Square payment flow) page with a '1名あたりの参加費' (Participation fee per person) of ¥2,000. Page 4 is the 'Square 決済方法' (Square payment method) page with a '必要事項の情報入力' (Input required information) section. Page 5 is the 'Square 決済方法' (Square payment method) page with a 'クレジットカード決済のカード情報入力' (Input credit card information) section. Page 6 is the 'Square 決済方法' (Square payment method) page with a 'これで決済完了です！' (Payment complete!) message. Page 7 is the 'Square 決済の流れ' (Square payment flow) page with a '1名あたりの参加費' (Participation fee per person) of ¥2,000. Red boxes highlight key information and instructions throughout the process.

▲参加費徴収に関する説明
 決済システムの操作方法
 ※受託事業者作成資料より

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等（企業版ふるさと納税活用の検討）

今後の課題と対応方針

● 企業版ふるさと納税等の寄付の活用

参加費用の高額化や所得格差による機会損失を防ぐための財源確保や仕組みの構築が必要である。本村では令和5年度から受入を開始している「企業版ふるさと納税」の活用について令和6年度中に本村財政係と3回の協議および調整を行なった。

協議の結果として、「地域再生計画」と本村「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の内容から「結婚、妊娠、出産の希望をかなえ、安心して子育てが出来る環境づくり」事業の「地域と協働による児童の健全育成」の事業項目に該当することを確認した。村長部局・教育委員会部局での庁内調整・連携を深め、令和7年度より具体的な事業としての追加・受入開始を予定している。

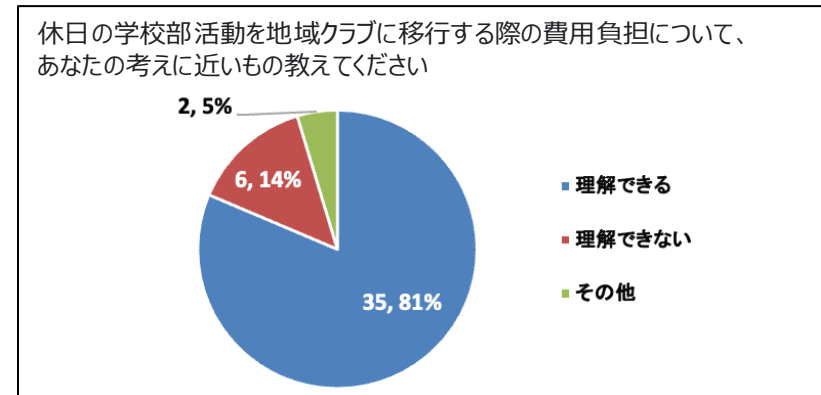
● 村民理解の拡充と適正な参加費の設定

今年度に中学生保護者を対象としたアンケート結果において、地域クラブに移行する際の費用負担について、81%が『理解できる』と回答しているため村民にも一定の理解を得られている一方で、『経済的負担』を心配する割合も多い状況である。

そのため、本年度の徴収した参加費用を基準とした適切な金額設定と支援策を構築すると共に、周知や説明などを丁寧に行うことで、持続可能な地域クラブの運営を目指す。

重点 企業版ふるさと納税等を含む民間資金の活用	
● 宜野座村まち・ひと・しごと創生推進事業（地域再生計画より抜粋）	
事業名称	具体的な事業
ア わらの特性を活かした「しごと・活動の場」づくり事業 若者・女性・子育て世代・高齢者等、多様な村民一人ひとりがいきいきと輝く「しごと・活動の場」、チャレンジの創出に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 新たな企業誘致及び施設の機能強化 高工業の振興 農水産業を活かした稼ぐ力の強化 多様なチャレンジの創出支援 チャレンジの場づくり等
イ 豊かな自然環境や地域資源を活かした「人の流れ」を受け入れる環境づくり事業 村民の愛着と誇りを高め、本村の魅力をもんで磨き、県内外に情報発信し、「ひとの流れ」を受け入れる環境づくりに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ブランディング（地域ブランド化）と効果的な情報発信 地域への愛着・郷土愛（地域意識）の向上 交通観光施設整備の充実 体験・交流（着地型観光）の推進 ふるさと納税制度の活用 定住の推進 既存住宅の活用等による住環境の整備等
ウ 結婚・妊娠・出産の希望をかなえ、安心して子育てが出来る環境づくり事業 結婚・妊娠・出産の希望をかなえ、子どもの健やかな成長を誰もが喜び、安心して子育てができる「環境」づくりに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 出会いの場づくりと結婚支援 安心して妊娠、出産を迎える環境づくり 子どもの健やかな育ちへの支援 就業前教育・保育の充実 子育て世代の経済的負担の軽減 地域と協働による児童の健全育成 仕事と家庭の両立支援 豊かな心と生きる力を育む学校教育の推進 子どものキャリアデザイン・ライフデザインの推進 高校・大学の進学にむけた学習支援等
エ 活動する「ひと」づくり、未来につながる「協働」のむらづくり事業 村民一人ひとりが健康で暮らしやすさを感じ、子どもや孫等の明るい未来のため、時代にあった地域をデザインし、未来に責任を持ち主体的に活動する「ひと」づくり、未来につながる「協働」のむらづくりに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 活動するひとづくり 心身ともに健康なむらづくり 地域コミュニティの支援と協働のむらづくり 暮らしやすさの追求 行政の効率化及び広域連携の推進等

引用：庁内協議資料 [村教育委員会・村総務課・委託事業者]



引用：R6年度 中学生保護者対象アンケート結果より

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

本村において、現状、宜野座中学校における学校開放利用者（教育課程外での一般利用団体）には、スペアキーの貸し出しをしており、鍵の紛失の恐れや利用時間（開錠施錠）の管理が難しい部分もある。そのため、地域クラブ活動の拠点化を見据えた施設の安全管理等も踏まえてスマートキーボックス及びクラウドカメラ設置・導入に向けた検討と実証を行う。

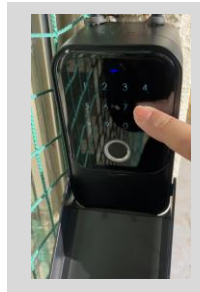
取組の成果

【スマートキーボックスの設置】

鍵本体の管理をICTツールで行う「スマートキーボックス」による検証を行った。今回使用した機器は、Wi-Fi環境がなくても操作ができるタイプであり、LTE通信サービスの範囲内で設置可能なものであった。事前に安定したLTE通信環境があるかどうかのテストを行い、本設置に進めた。

鍵本体での管理に慣れていた方に関しては、最初は操作に不慣れさを感じていたが、シンプルな方法であったため、数回で操作は問題なく行われた。一方で、設置条件がクリアであった場所が体育館裏側であったため、その点での改善点は浮き彫りになったところである。

スマートキーボックス本体▶
(パスコード入力時)



【クラウドカメラの設置】

今回、検証のために設置した機器は置き型タイプの1台であったため、全体が映せる設置場所が限定的で出入口を画面に収めることはできなかったが、施設体育館内が見渡せる位置としていることから、地域クラブ活動や指導の状況（様子）を確認することでは十分であった。今後、導入可能性に向けては、部活動地域移行促進公立学校施設整備費補助金の活用や、機器の仕様（現状復帰が前提となるものか、工事を要するものでも破損等が発生しづらい場所への設置ができるもの等）、ランニングコストを踏まえた比較検討を行う必要がある。

クラウド上での画面▶
(地域クラブ活動 | バドミントン*重点)



今後の課題と対応方針

本村では、学校体育施設の一般利用団体等は現状多くなく、アナログでの対応となっているが、今後、地域クラブ活動の拠点化を目指していくために、鍵の管理方法も含め、体育施設内の使用にかかる安心の担保や安全性の向上をクラウドカメラの設置により効果を位置付けていくとともに、利

用者の一元管理ができる仕組み構築も検討していきたい。また教育委員会は、社会体育施設も管轄しており、学校体育施設と共に指定管理制度も含めた構築の検討にも繋げていきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今後、学校単位でのスポーツ活動の実施が困難になる予測を踏まえ、地域クラブ活動の運営管理の仕組み構築・確立に向けて、1クラブにおいてモデル実証を行い、また今回、初の試みとして参加者からの費用徴収を実施した。保護者説明をオンラインで開催、参加費があることもあり、申込期間中での反応があまり思わしくなかった状況にあった。参加費の発生に関しては、初めての取り組みということも踏まえ、十分な理解を得るために保護者理解の得やすい形での説明会実施の検討が必要だと感じた。

また、持続可能な地域クラブ活動の環境整備に向けて、財源確保の一つの手法である企業版ふるさと納税の活用を庁内関係部署との勉強会を実施したことにより、既存の「地域再生計画」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において事業項目に該当できる内容が確認できた。次年度以降、本格的なアクションにつなげられたことは大きな一歩であり、今後も財政面だけではなく施設面やシステム面など様々な手法を検討していくにあたっては、村長部局・教育委員会部局での相互連携を引き続き深めていきたい。

●成果の評価

今回、初の試みとして、参加者からの費用徴収を実施した。現金払いではなく、システムでのクレジット決済の対応のみとしたが、決済方法や流れを事前に周知していたこともあり、トラブルなく徴収ができた。参加費の費用負担に関して、一定の理解があることはアンケートからも読み取れるが、今後、年間や月額、村の実情に応じた価格設定を適切に行い、保護者等への周知を図っていく必要がある。その一歩として、実際の費用徴収が実施でき、実績をつくれたことは今回の成果として評価したい。

費用に関連して、困窮家庭への支援策の検討を進めていくと同時に、今回議論した企業版ふるさと納税の活用の見通しが立てられたことも大きい。次年度から実際に募っていくフェーズに移るため、寄附金の有効的な活用ができるよう、地域クラブ活動にかかる試算と収支バランスの整理も行なっていきたい。

●今後に向けて

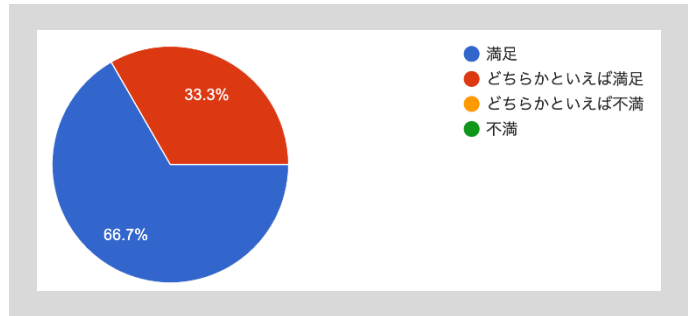
策定した推進計画を基に、次年度以降は地域クラブ活動の拡充及び関係する規則や制度の見直しや検討などを進めていく。まず、財源確保として企業版ふるさと納税の活用実施の見通しが建てられたため、令和7年度から具体的な事業としての追加・受入開始を予定する。また、地域クラブ活動の認定基準を設けると同時に指導者要件の整理を行い、適切なクラブ認証及び指導者配置と研修制度の確立を進めていく。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

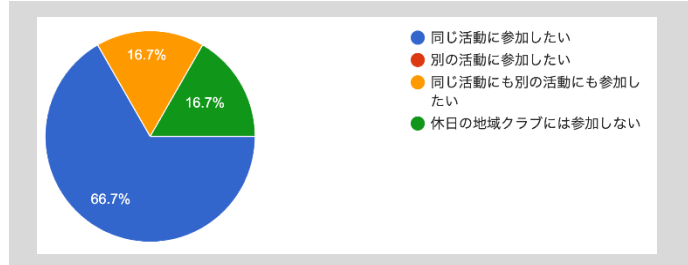
●アンケート結果

Q. 地域クラブ活動の満足度を教えてください



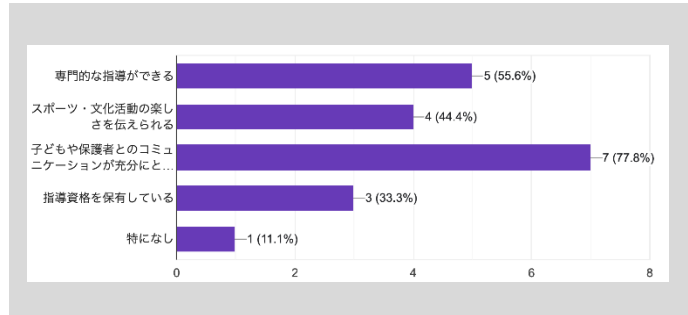
満足 | 66.7%
どちらかといえば満足 | 33.3%

Q. 次年度も休日の地域クラブを継続した場合、参加したいと思うか



・同じ活動に参加したい 66.7%
・同じ活動にも別の活動にも参加したい 16.7%
・休日の地域クラブには参加しない 16.7%

Q. 指導者に求めるものを教えてください



【上位3】

- 子どもや保護者とのコミュニケーションが充分にとれる
- 専門的な指導ができる
- スポーツ・文化活動の楽しさを伝えられる

●参加者の声

参加生徒

- ・希望する活動ができ、勝敗や入賞にこだわらない気軽に楽しめる活動ができた

指導者

- ・地域、学校、行政が一丸となり本気で解決に取り組むべき。まずは意見交換できる場を多く設けるべき。

保護者

- ・指導者、保護者の負担はある程度理解するが、行政の補助サポートがなければ運営は難しいと思います。スポーツを頑張る子供たちやサポートする保護者などの負担軽減、広くスポーツ活動を広めるにあたって考慮頂きたいです。

顧問教員

- ・教員がボランティアや善意で行っていたことを、地域(コーチ)になすりつけただけになっている気がしています。教員がやるにしても地域がやるにしてもしっかりと時間や労力に見合った賃金を出すようにしてほしいです。

アンケート結果・広報資料

再周知! (令和6年度 宜野座村地域クラブ活動モデル事業)

宜野座村 「ソフトテニス地域クラブ活動」案内

地域クラブ活動は、文部科学省（スポーツ庁）より方針が出されている取り組みで、令和5年度から令和7年度の期間においては、学校部活動の土日・祝日の活動を地域活動に移行することに段階的に取り組んでいくための改革推進期間と位置付けられています。本年度、本改革の実証研究として取り組むものとして、宜野座村ではソフトテニスをモデル実証として活動に取り組んでいきます！

ソフトテニスで スポーツを楽しもう♪

事業主体者 | 宜野座村教育委員会
 運営事業者 | スポーツデータバンク沖縄株式会社
 実施種目 | ソフトテニス
 実施場所 | 宜野座中学校
 対象者 | 宜野座中学校ソフトテニス所属生徒
 活動日程 | 休日活動の地域移行（実施曜日は原則、土日祝日のうち1日）
 活動期間 | 2024年12月～2025年1月（合計8回）※予定
 参加費 | 2,000円/名（税込）
 ※参加費は保険料、消耗品、指導者報酬等に充てられます
 ※経済的困難世帯については、減免となる場合がございます
 （参加登録後、申請希望の有無を確認いたします）
 申込期間 | **2024年12月13日（金）まで**
***Googleフォームで申請**

保護者説明会の関係資料・参加申請フォームの詳細は裏面をご覧ください！！

【問い合わせ先】
 宜野座村-地域クラブ活動（LINE公式アカウント）
 ▶ 右記QRコードからお問い合わせください

【生徒への参加啓発チラシ】

Square 決済の流れ

2 Square 決済リンクの御案内

① 事務局からBand内において御案内
 事務局よりBandのトークルームから決済リンクのご案内をいたしますので、そちらのリンクをクリックしてください。

② 参加クラブのページ
 事務局から案内された決済リンク先が、参加するクラブのページかをご確認ください。

宜野座村 地域クラブ（ソフトテニス）参加料 ¥2,000

【主催】宜野座村教育委員会
 【運営事業者】スポーツデータバンク沖縄株式会社

本事業の参加費（保険料、消耗品費、指導者報酬等）として、1名につき2,000円（税込）を徴収いたします。

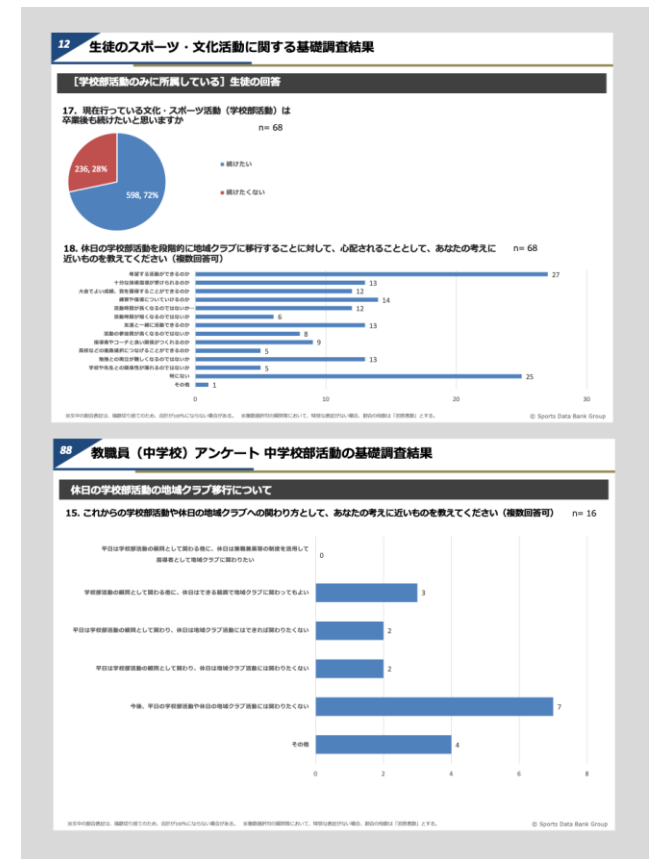
- 事業開始後の返金は、原則、致しません。
- 参加費は、本事業への参加費となっているため、欠落された場合は返金できません。

※延長申請の方は別途費用となります。※ページで決済を行わないようご注意ください

小計 ¥2,000
 合計はお会計時に計算されます

決済

【参加費徴収システムの案内】



【アンケート結果】

参考資料（活動写真）



【スマートキーボックス設置確認】

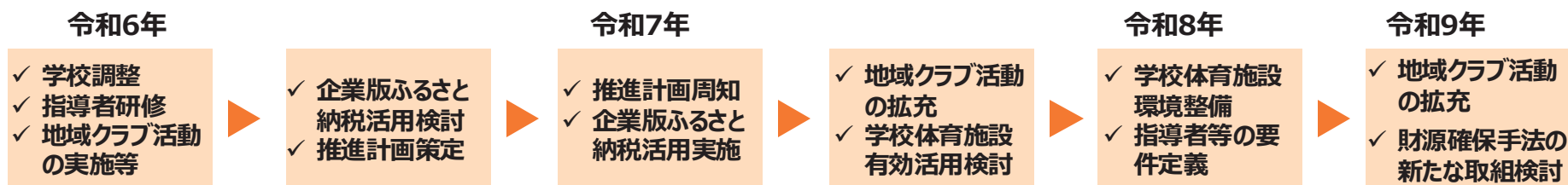


【クラウドカメラ設置の様子】



【検討委員会の様子】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

村長部局、村教育委員会、総括コーディネーター、学校、村内スポーツ関係団体、地域指導者（近隣地域含む）

経過

●経過

本村は、令和5年度から地域移行の取り組みを進めてきたところである。村内1中学校において、今後、学校単位でのスポーツ活動の実施が困難になる予測を踏まえ、令和6年度では地域展開の環境整備に向けた地域クラブ活動の運営管理の仕組み構築や、中学生年代だけに括らない多世代との活動可能性も含めた検討と実証を行なった。また、村としての方向性を地域で共通認識を図るため、推進計画策定の検討を進めた。

●実施にあたって生じた課題

これまで学校管理下で行われてきた学校部活動で外部指導者として関わってきた指導者の多くは、ボランティアに近い形で指導に当たっていた。今後、地域クラブ活動の指導者として関わっていく際には、これまで一部学校のサポート等があったところが地域クラブとして担っていかなければならない点は、大きな課題として感じていることが分かった。例えば備品の調達・確保や活動場所の確保、また今後、地域クラブとして大会参加の場合には参加費や遠征費等、指導者だけでなく参加家庭の費用負担が大きくなると参加者も減っていく懸念が示された。

●今後の展開

策定した推進計画を基に、次年度以降は地域クラブ活動の拡充及び関係する規則や制度の見直しや検討などを進めていく。まず、財源確保として企業版ふるさと納税の活用実施の見通しが建てられたため、令和7年度から具体的な事業としての追加・受入開始を予定する。また、地域クラブ活動の認定基準を設けると同時に指導者要件の整理を行い、適切なクラブ認証及び指導者配置と研修制度の確立を進めていく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ^o

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
方針・制度設計			
検討委員会の設置・運営	→		
推進計画の策定及び周知		→	
教員の兼職・兼業の規定及び運用の見直し		→	
実施主体・地域クラブ運営			
実施主体（地域クラブ）認証・基準づくり		→	
地域団体等との連携・協議		→	
実施主体の認定・運営			→
指導者・研修制度			
指導者基準・条件の整理		→	
研修・認証制度の整理		→	
人材バンクの設置・募集・運営			→
財源の確保・参加費の設定			
経済困窮家庭への支援制度の検討・方針決定			→
企業版ふるさと納税含む財源確保の仕組みづくり		→	
参加費の設定・周知・受け入れ		→	
学校体育施設の有効活用			
学校施設利用方法（指定管理制度・予約システム含む）の見直し		→	
ICT活用の検討・導入・運用		→	
学校体育施設の安心安全な仕組みづくり		→	

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

沖縄県 渡嘉敷村

自治体名： 沖縄県渡嘉敷村

担当課名： 教育課

電話番号： 098-987-2120

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	19.2 km ²
人口	652 人
公立中学校数	1 校
公立中学校生徒数	23 人
部活動数	1部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	教育委員会と学校の協議は実施
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

○離島である本村は、児童生徒数が少なく部活がバドミントンの1種目のみとなり、生徒が部活動を

選ぶことができない。そのため運動・バドミントンが苦手な生徒は部活動できない現状となる。

○部活動地域移行においては、本村に部活動の受け皿となる総合型スポーツクラブ等が存在しない。

そのため教員に代わる部活動指導者を地域人材で補う事ができない。

○現在、バドミントン部の顧問はバドミントン部の経験がない教員が担当している。

そのためバドミントン部の生徒は専門的な指導を受ける事ができていない。

○保護者からはバドミントンの専門知識を持つ指導者からの指導要望が上がっている。

○教員が土日の部活動に対応しており、業務軽減が図れていない。

【課題】

①島内人材で教員に代わる指導者の確保は難しく、ICTを活用し遠隔で指導者を提供できる環境とノウハウが必要。

②専門的な指導が受けられていないバドミントン部の生徒へ対し、専門的な指導が受けられる体制構築が必要。

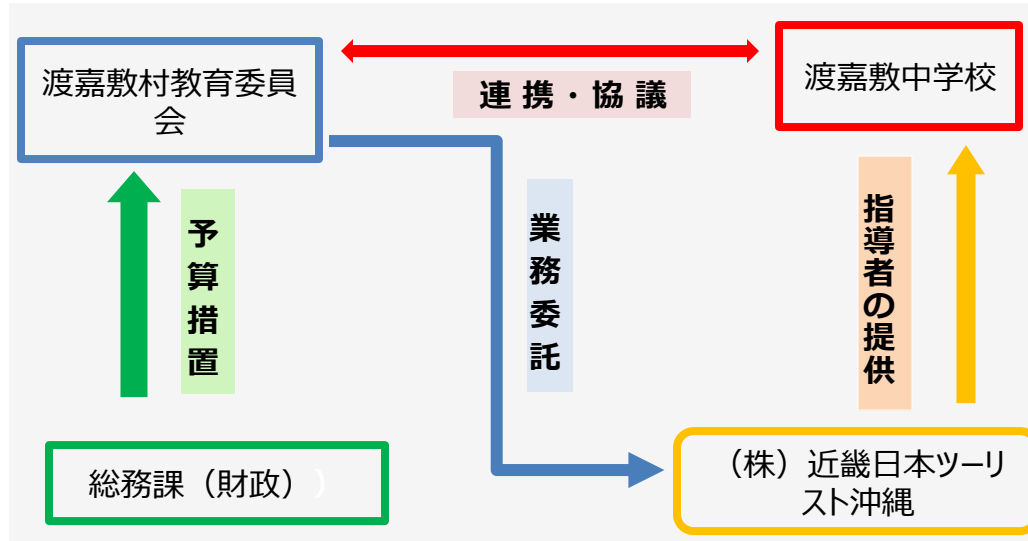
③教員が部活動に関わらない体制の構築が必要。

④既存のバドミントン部だけではなく、生徒の要望に応じた多様な部活動を経験できる環境が望ましい。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

・部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について

◎首長部局

・総務課（財政）・・・予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年9月	生徒・保護者向け 地域移行に関するアンケート
令和6年11月	クラブ運営体制の整備 指導プログラムの構築
令和6年12月	渡嘉敷村地域バスケットボール部 （休日） ※部活動の実施の様子を保護者にもライブで実況中継する等、オンラインの可能性を検討する
令和6年12月	学校・教育委員会 進捗状況確認・協議
令和6年12月 ～ 令和7年2月	オンラインバドミントン部（休日） 平日の部活動における、教員の業務負担軽減を検証

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	1人	全体の運営スタッフ数	3人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
渡嘉敷村 地域バスケットボール部	教育委員会	バスケットボール（新）	月2回	10:30 ～ 12:30	小学2年 小学4年 小学5年 中学1年 中学2年	12月 (計2回)	体育館	1人	3人	会費なし	なし

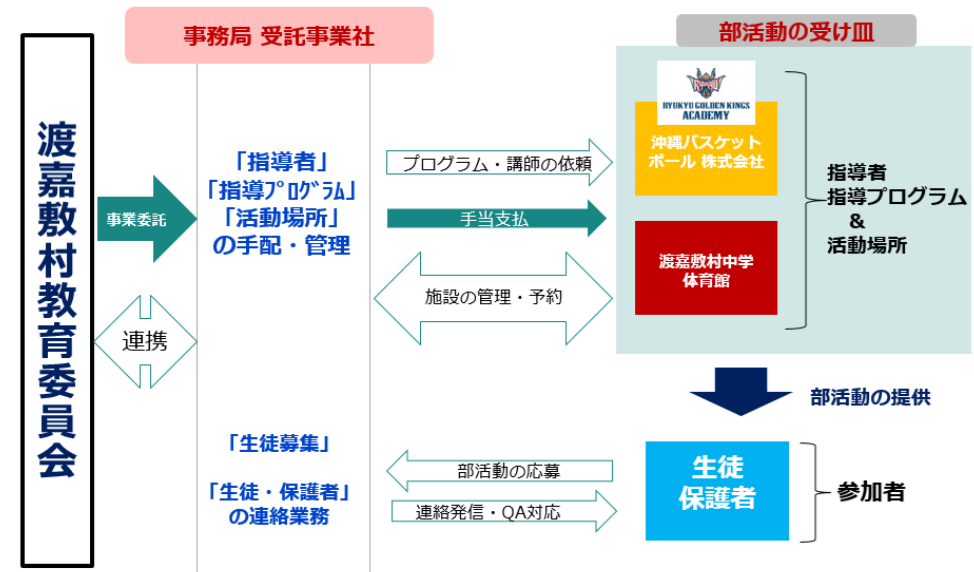
2.実証内容と成果

主な取組例

●ハイブリット バasketボールクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール
運営団体名	渡嘉敷村 地域バスケットボール部
期間と日数	・オンライン指導：12月14日 ・リアル&オンライン（ハイブリット指導）：12月21日
指導者の主な属性	琉球ゴールデンキングスアカデミーコーチ
活動場所	渡嘉敷中学 体育館
主な移動手段	オンライン指導&沖縄本島からの移動
1人あたりの参加会費等（年額）	無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者
役割：指導者・指導プログラムの手配・管理、参加者管理を行う
- 主任指導者 1名
役割：指導プログラムの策定、メイン指導者としての指導を行う（オンライン）
- 運営補助者 3名
役割：メイン指導者と共に指導を行う。ハイブリット指導ではリアルにて指導を実施

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○オンラインバスケットボール部の実施

生徒から興味・関心があるスポーツについて、アンケートを行い、要望が多くあがった、バスケットボール部を実施した。指導には、ICTを活用したオンライン指導と対面による指導を組み合わせ、離島でありながら専門的な指導が受けられる部活動の実証を行った。

取組の成果

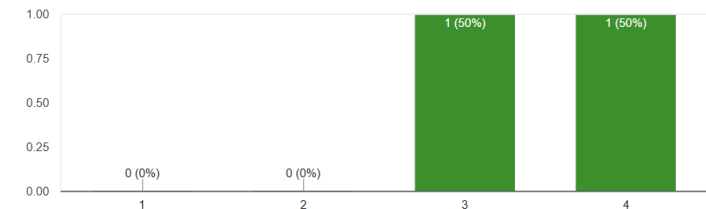
専門的な指導により、短時間でありながら、技術の向上が見られた他、部活動に所属していない生徒からも参加があり、スポーツ機会の創出に繋がった。

保護者からは参加したキッカケとしては「島ではなかなか体験できる事ではないから」や「滅多に無い貴重な経験なので参加して欲しかった」の声が上がり、参加後の満足度については「プロの指導者から教えてもらったこと」や「指導者が楽しく指導して下さった」等の声が上がりと満足度の高い内容となった。

参加をした満足度（保護者）

←満足しなかった

とても満足した→



コーディネーターの具体的な動きの実績

【コーディネーター（運営事務局）】

- ・学校、地域クラブ参加者、指導者提供団体の管理
- ・地域クラブ参加者の募集から連絡調整業務を担う

今後の課題と対応方針

オンライン部活動は、参加者からの感想について非常に満足度が高くオンラインでもリアルと変わらない指導が受けられる事がわかった。

2回目はオンライン指導×指導者が来島しオンラインとリアルで行うハイブリット指導を行ったが、リアル指導が伴う事により生徒との距離が近くなることによる効果についても本実証を通し証明する事ができた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

休日に行った実証事業に加え、現在渡嘉敷中学で活動しているバドミントン部に対しオンライン指導を行った。バドミントン部の顧問は競技未経験のため指導が難しい点と、渡嘉敷村として進めている教員が部活動に携わらない環境づくりのため、オンラインでの指導を実施した。

取組の成果

今までの部活動ではバドミントン経験のある先輩からの指導がメインだったが、プロの指導者がオンラインを活用する事により指導が可能となった。

【オンライン部活動スケジュール】

R6年度 渡嘉敷中学オンラインバドミントン部

部活動提供スケジュール

日付	時間	内容	備考
12月5日(木)	16:00~18:00	第1回	渡嘉敷中学 体育館
12月19日(木)	16:00~18:00	第2回	渡嘉敷中学 体育館
1月9日(木)	16:00~18:00	第3回	渡嘉敷中学 体育館
1月11日(土)	島尻地区 新人大会		
1月12日(日)			
1月23日(木)	16:00~18:00	第4回	渡嘉敷中学 体育館
2月6日(木)	16:00~18:00	第5回	渡嘉敷中学 体育館
2月20日(木)	16:00~18:00	第6回	渡嘉敷中学 体育館

※オンライン部活は2/20を一旦終了とし、来年度以降の再開については今後の協議とする。

※15分前には活動場所となる「渡嘉敷中学体育館」に集合いただき、オンライン機材の準備をお願いします。

★会議リンク zoom★

<https://zoom.us/j/98612395443?pwd=vATnZk8wvi9eW6vblEA1mVqhrpR.1>
ミーティング ID : 986 1239 5443
パスワード : 572434

出典:渡嘉敷村教育委員会

指導者の属性や配置の工夫

・指導者の属性：
NTT東日本バドミントン部

・配置の工夫：
指導者にとって移動の必要がないオンライン指導を行った。
昨年度の実証を活かし生徒とのコミュニケーションが図れるよう2名体制で指導を行った。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

渡嘉敷村中学バドミントン部の顧問は競技経験がないが、今回のオンライン指導に顧問も参加し指導ノウハウ等をプロの指導者へ確認する事ができた。

今後の課題と対応方針

オンラインを活用した指導により、生徒にとってより充実した部活動の実現が可能となった。教員（顧問）にとっても、指導をプロの指導者に任せる事により業務軽減に繋がる事ができた。今後はオンライン指導の頻度を増やしていく事を検討していく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

生徒から興味・関心があるスポーツについて、アンケートを行い、要望が多くあがった、バスケットボール部を実施した。

指導には、ICTを活用したオンライン指導と対面による指導を組み合わせ、離島でありながら専門的な指導が受けられる部活動の実証を行った。

生徒に教職員以外の専門家の指導者による指導を行い。地域クラブの運営について委託し移行への可能性の検証を実証するとともに、地域クラブとして発足する際の必要経費について実証から分析する。まずは土日のみの地域クラブ活動を行いながら、平日部活動の移行についても検証を行った。

●成果の評価

保護者からは参加したキッカケとしては「島ではなかなか体験できる事ではないから」や「滅多に無い貴重な経験なので参加して欲しかった」の声が上がり、参加後の満足度については「プロの指導者から教えてもらったこと」や「指導者が楽しく指導して下さった」等の声上がりとても満足度の高い内容となった。

専門的な指導により、短時間でありながら、技術の向上が見られた他、**部活動に所属していない生徒からも参加があり、スポーツ機会の創出に繋がった。**

●今後に向けて

オンライン部活動は、運動系・文化系に関わらず、多様な種目が実施可能であり、離島地域において有効である事がわかった。

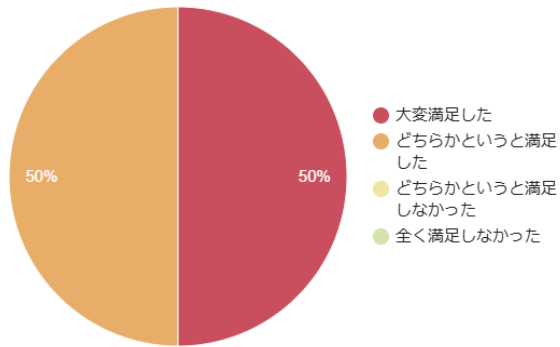
渡嘉敷村として今後オンラインを活用した部活動の種目を増やしていくと共に、既存部活動「バドミントン部」のオンライン活用についても教員の業務軽減を図るため導入を進めていく。

今回の実証事業を通し、生徒・保護者のアンケート内容を学校と教育委員会で確認・協議を行いながら、今後の進め方について検討していく。

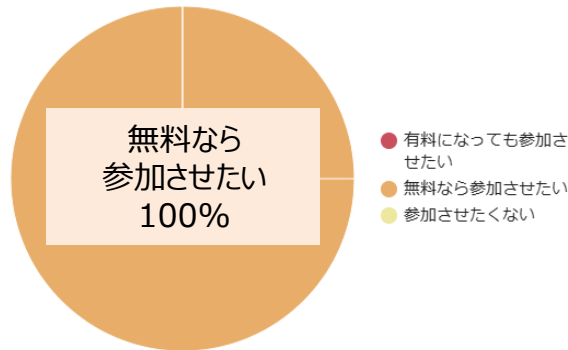
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

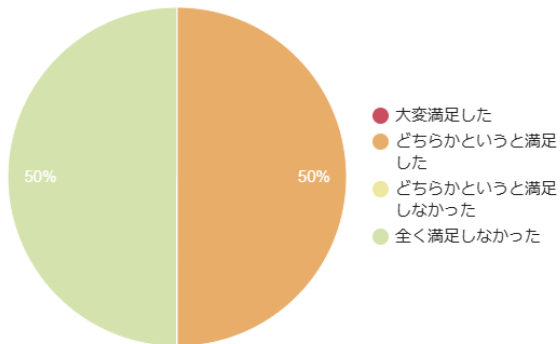
Q.【保護者】お子様が オンライン×リアル指導 バスケ部体験 に参加された上で、保護者目線の満足度をお聞かせください。



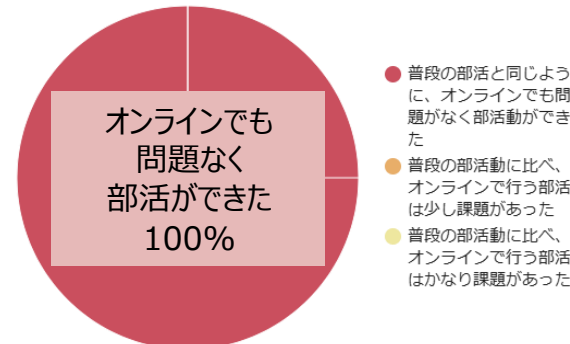
Q.【保護者】引き続き来年度以降もオンラインで行うバスケ部に参加させたいと思いますか。



Q.【生徒】オンライン×リアル指導 バスケ部体験 に参加された上での満足度をお聞かせください。



Q.【生徒】普段の部活動と比べ、オンラインで行うバスケ部の部活動に課題はありましたでしょうか。



●参加者の声

保護者

(満足度の理由として)
プロの指導者から教えてもらったこと

保護者

(オンラインバスケのお知らせを聞いて)
滅多に無い貴重な経験なので参加して欲しかった

生徒

(何を期待して参加したかの理由として)
楽しさ

生徒


今回バスケ部体験をさせてくれてありがとうございました！

アンケート結果・広報資料

オンライン部活 バasketボール部 募集要項

コーチからの直接指導をリアルタイムで受けることができる**オンライン部活**を
琉球ゴールデンキングスアカデミーコーチが指導します！

オンライン部活概要




バスケットボール部


・オンラインにてドリブル・パス・シュートの基本個人技術を中心に指導を行います
※全くバスケットボールに触れたことのない 初心者の方でも問題なく参加できます

・12月21日の指導では、キングスアカデミーのコーチが渡嘉敷に来島します！
※オンライン部活で足りない部分を補うため、オンライン指導に加え
対面でも指導を行うハイブリット指導

協力：沖縄バスケットボール 株式会社



申込と部活スケジュール

オンライン部活実施スケジュール & 申込について 場所：渡嘉敷村中学体育館		
12月14日(土)	10:30~12:30 ※完全オンライン指導 キングスのアカデミーコーチのオンライン指導	申込方法： 下記QRコードより 
12月21日(土)	10:30~12:00 ※キングスアカデミーのコーチが 来島します オンラインとリアルで行うハイブリット指導	

問い合わせ先

渡嘉敷村教育委員会
社会教育係 三番
TEL：098-987-2120

**本事業の
運営事務局**

近畿日本ツーリスト株式会社
教育旅行事業部
東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル36階

※開催は土曜日となりますので、渡嘉敷中学校への送迎を教育委員会がサポートいたします

今回のオンライン指導の流れ



Goal: バスケットボールの楽しさを知って、練習前の自分より進化する！とにかく喋る！

【練習メニュー構成】

- ①アイスブレイク 20分
- ②ハンドリング 10分
- ③ドリブル 30分
- ④シュート 40分
- ⑤1on1 20分
- ⑥自主練動画・宿題提供 閉会式時

【オンライン指導プログラム内容】

出典:琉球ゴールデンキングス バスケスクール
沖縄バスケットボール株式会社

【生徒への募集チラシ】

出典:渡嘉敷村教育委員会

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【オンライン指導のコーチ】



【生徒の練習風景】



【オンライン指導中】



【集合写真】

出典:渡嘉敷村教育委員会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

渡嘉敷村の部活動の実情を把握

令和5年度短時間で効果的な部活動の実証事業

専門家の意見を交え、ICTを活用した部活動の効果を検証

令和6年

生徒・保護者に向けアンケートを実施

令和6年度部活動の地域移行に関する実証事業

令和7年以降

2年間の実証事業をふまえ、渡嘉敷村にあった体制を確立。

ステークホルダー

学校、村教育委員会、村長部局
コーディネーター、部活動育成会、小中学校PTA

経過

令和5年度より、運動部活動の地域移行に関する取組みとして、「渡嘉敷村地域スポーツクラブ活動体制整備事業」を開始。

離島でありながら、地域間格差のない、専門的な指導を受けられる体制づくりを目指し、ICTを活用したオンライン部活動の実証事業を行った。

実証事業には、ICTを活用した部活動の研究者を交えた検討協議会を設置し、専門的な意見を交えながら検証を行った。

令和6年度は、学校との協議、保護者の意見を踏まえ、休日のICT活用した部活動を継続すると同時に、平日の部活動についても、オンライン部活動を実施することで、教員の業務負担軽減を図った。

実施にあたって生じた課題

部活動の安全管理者・現場の指導者として、地域人材を活用予定であったが、人材不足により、活用できていない状況である。地域クラブの受け皿が存在しなく、人材不足である本村において、外部指導員の確保について今後、検討が必要である。

また、クラブ運営の費用について、参加者から一部受益者負担として参加料を徴収する予定であったが、保護者からの理解が得られず、徴収できていない。今後、参加者の負担にならない参加料の金額を設定するとともに、受益者負担の考え方について、再度整理し、受益者負担の必要性について説明する。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

